

令和6年度（令和5年度事業対象）

美 浜 町 教 育 委 員 会

自己点検・評価報告書

美 浜 町 教 育 委 員 会

令 和 6 年 9 月

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抜粋）

（設置）

第2条 都道府県、市（特別区を含む。以下同じ。）町村及び第二十一条に規定する事務の全部又は一部を処理する地方公共団体の組合に教育委員会を置く。

（組織）

第3条 教育委員会は、教育長及び四人の委員をもつて組織する。ただし、条例で定めるところにより、都道府県若しくは市又は地方公共団体の組合のうち都道府県若しくは市が加入するものの教育委員会にあっては教育長及び五人以上の委員、町村又は地方公共団体の組合のうち町村のみが加入するものの教育委員会にあっては教育長及び二人以上の委員をもつて組織することができる。

（教育委員会の職務権限）

第21条 教育委員会は、当該地方公共団体が処理する教育に関する事務で、次に掲げるものを管理し、及び執行する。

- 1 教育委員会の所管に属する第30条に規定する学校その他の教育機関（以下「学校その他の教育機関」という。）の設置、管理及び廃止に関すること。
- 2 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の用に供する財産（以下「教育財産」という。）の管理に関すること。
- 3 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 4 学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。
- 5 教育委員会の所管に属する学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- 6 教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- 7 校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること。
- 8 校長、教員その他の教育関係職員の研修に関すること。
- 9 校長、教員その他の教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全、厚生及び福利に関すること。
- 10 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の環境衛生に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 青少年教育、女性教育及び公民館の事業その他社会教育に関すること。
- 13 スポーツに関すること。
- 14 文化財の保護に関すること。
- 15 ユネスコ活動に関すること。
- 16 教育に関する法人に関すること。
- 17 教育に係る調査及び基幹統計その他の統計に関すること。
- 18 所掌事務に係る広報及び所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。
- 19 前各号に掲げるもののほか、当該地方公共団体の区域内における教育に関する事務に関すること。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

はじめに	1
1 教育委員会の点検・評価について	2
2 美浜町教育大綱	3～6
3 美浜町教育振興計画.....	7～8
4 令和5年度教育委員会の活動状況.....	9～14
5 令和6年度（令和5年度事業対象）自己点検・評価	15～31
（「美浜町教育委員会の自己点検・評価シート」）	

はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、美浜町教育委員会が行った令和5年度の教育行政事務の自己点検・評価をまとめ、議会に提出するとともに公表するものです。

教育委員会では、今回の自己点検・評価を踏まえ、さらに効果的な教育行政が展開できるよう努めてまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年9月

美 浜 町 教 育 委 員 会

教育長 加 藤 浩

教育長職務代理者 兵 庫 千鶴子

委 員 高 木 和 彦

委 員 柴 田 利 郎

委 員 渡 邊 悦 子

1 教育委員会の点検・評価について

(1) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動、教育委員会が管理執行する事務、教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務の3区分とし、本年度は、令和5年度に実施した事業について点検・評価を実施しました。

(2) 点検・評価の構成

① 教育委員会の活動

教育委員会の運営改善、会議の公開・保護者や地域住民への情報発信等5項目について、点検・評価を行いました。

② 教育委員会が管理・執行する事務

教育行政の基本方針を定めること、学校その他の教育機関の点検・評価を行いました。

③ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

美浜町教育大綱と第五次美浜町総合振興計画に基づく美浜町教育振興計画に掲げた各施策について、点検・評価を行いました。

(3) 点検・評価方法

点検・評価にあたっては、事務事業の成果と課題を総括するとともに、内部評価を行いました。次に点検・評価を客観的に行うため、次の学識経験者をお願いいたしました。

外部評価者 久 寄 純 子 氏

河 合 政 志 氏

なお、判定方法は4段階で、次のとおりです。

評価	評価基準
A	十分な成果がみられた
B	おおむね成果がみられた
C	成果がみられなかった
D	評価対象外（未着手）

※実施時期未到来はD評価（未着手）で、評価対象外

美浜町教育大綱

1. 教育大綱の基本理念

地域を愛し 自らを高め 夢を実現する ひとづくり

「この町で子どもを育てて良かった」、「この町の学校で学べて良かった」「この町に住んで良かった」と実感できる町づくりを進めていくために、生涯にわたって学ぶ環境を整え、豊かな人間性と社会性、地域への愛と誇りを育み、自分の夢や希望に向かって自らの可能性を伸ばしていくことができる「ひとづくり」を目指して教育を推進します。

2. 基本目標

I 生涯学習の推進 ～共に学び合う学習環境づくり～

全ての町民が充実した生涯を送り愛があふれ住むことが誇れるまちをつくるために、生涯にわたって学べる機会やその成果を活かせる環境づくりを推進します。

II 学校教育の充実 ～個性を伸ばし夢を育てる教育～

特色ある教育を推進し、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育みます。

Ⅲ 社会教育の充実 ～地域コミュニティ及び町民の自主活動の推進～

町民が主体的に地域を学び、地域課題の解決に向け協力し行動できるひとづくりや環境づくりを進め、地域力を高める取組を推進します。

Ⅳ 生涯スポーツの推進 ～誰もが親しめるスポーツの推進及び健康・体力の増進～

誰もが、いつでも、どこでも、気軽に楽しめるスポーツを推進し、町民の健康と体力増進を図ります。

Ⅴ 町民文化の創造 ～なびあすを拠点とした芸術文化の推進～

芸術や音楽、多彩な文化芸能に触れる機会を提供し、幅広い世代の町民が参加し楽しめる文化活動の活性化を目指します。

Ⅵ 歴史文化の伝承 ～歴史を学び、活かすふるさとづくり～

郷土の誇りとなる伝統文化や歴史資源の魅力を発信するとともに、町民が、学び、育み、次の時代へ大切に継承していく環境づくりを目指します。

Ⅶ 人権尊重への取り組み ～互いの人権が尊重される町の実現～

子どもから大人まで、あらゆる場を通じて人権について正しく理解し考える機会を提供し、一人ひとりの人権を尊重し認めあうことのできる人づくりを目指します。

3. 重点施策

I 生涯学習の推進

- (1) 各世代のニーズに合った学習機会の充実
- (2) 生涯学習推進の核となる人材の育成
- (3) 多様な媒体を活用した生涯学習情報の提供

II 学校教育の充実

- (1) 学力・体力の向上と豊かな心の育成
- (2) I C Tを活用した教育環境の充実・強化
- (3) 生活リズムの向上といじめ・不登校対策
- (4) エネルギー環境教育の充実
- (5) 地域愛学習の推進

III 社会教育の充実

- (1) 公民館を活用した地域コミュニティの推進
- (2) 魅力ある図書館づくりの推進
- (3) 教育と福祉が連携した切れ目のない子育て支援の充実
- (4) 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

Ⅳ 生涯スポーツの推進

- (1) スポーツを通じた町民の健康・体力の増進
- (2) スポーツ施設の適切な管理と利用促進
- (3) 各種スポーツ団体の組織強化

Ⅴ 町民文化の創造

- (1) 若者から高齢者まで幅広い世代が参加できる事業の推進
- (2) 町民による芸術文化活動の活性化
- (3) 子どもの文化事業の推進

Ⅵ 歴史文化の伝承

- (1) 郷土の歴史・文化・景観の保全と継承
- (2) 重要遺跡や歴史資料の調査研究
- (3) 多様な媒体を活用した郷土の情報発信

Ⅶ 人権尊重への取り組み

- (1) 生涯を通じた人権教育
- (2) 啓発活動による人権意識の向上

美浜町教育振興基本計画（令和３年度～令和７年度）

美浜町では、令和３年３月に“地域を愛し 自らを高め 夢を実現する ひとづくり”という基本理念のもと、今後５年間に講ずべき教育施策を示した『美浜町教育大綱』を改定しました。

この大綱の理念を具現化し実効性のあるものとするため『美浜町教育振興基本計画』を定め、以下の重点施策を積極的に推進することにより美浜町の教育の振興を図ります。

また、町では、国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）について、県の「ふくいSDGsパートナー」として登録しテーマに沿った取り組みを実施しております。教育委員会においてもSDGsの実現を目指す活動を推進していきます。

基本目標	重点施策
1 生涯学習の推進	① 学習機会の充実
	② 学習施設の整備及び管理運営
	③ 学習情報の充実
	④ 人材の育成
	⑤ 推進体制の整備
2 学校教育の充実	① 学校教育環境の整備・充実
	② 学力・体力の向上と特色ある教育の推進
	③ 児童・生徒の心身の健全育成
	④ 地域とともにある学校づくり
	⑤ 保小中連携の推進
	⑥ エネルギー環境教育の充実
3 社会教育の充実	① 地域コミュニティの推進
	② 図書館活動の充実
	③ 青少年健全育成の推進
	④ 社会教育活動への参加促進

基本目標	重点施策
4 生涯スポーツの推進	① 生涯スポーツの推進
	② スポーツ施設の充実・活用
	③ 推進体制の強化
	④ スポーツ交流の促進
	⑤ 国体レガシーを活かしたスポーツの推進
5 町民文化の創造	① 芸術・文化の機会提供及び推進
	② 文化活動への町民参画の推進
	③ 地域文化への支援
	④ 文化施設の活用
	⑤ 文化交流の推進
6 歴史文化の伝承	① 歴史文化の掘り起こしと調査
	② 歴史文化の保存と継承
	③ 文化財の活用と情報発信
7 人権尊重への取り組み	① 人権学習・啓発の推進
	② 人権擁護の取り組み
	③ 人権が尊重される社会の実現

令和 5 年度教育委員会の活動状況

【教育委員会】 1 3 回開催

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 4 回	4 月 26 日	議案第 9 号	令和 5 年度美浜町給食センター運営委員会委員の委嘱について
		連絡・報告事項	令和 5 年度教育委員会事務局の体制等について
			なびあすファンクラブ会員規約概要について
			「興道寺廃寺保存活用事業」における今後のスケジュール等について
			令和 5 年度福井県市町教育委員会連絡協議会総会及び研修会等について
			各小・中学校の年間行事について
			第 3 5 回美浜・五木ひろしふるさとマラソンについて
第 5 回	5 月 17 日	議案第 10 号	令和 5 年度美浜町生涯学習推進委員（社会教育委員・公民館運営審議会委員を兼ねる）の委嘱について
		議案第 11 号	美浜町立図書館協議会委員の任命について
		連絡・報告事項	第 3 5 回美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会について
			美浜町放課後児童クラブの現状と課題について
			美し美浜プレミアム給食について
			小学校体育大会（6 月 3 日）について
第 6 回	6 月 28 日	連絡・報告事項	令和 5 年度（令和 4 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
			令和 5 年度 6 月補正 主な関係予算 について
			令和 5 年度国吉城址及び周辺地区史跡整備事業 史跡標柱設置工事の概要について
			令和 5 年度美浜町給食センター厨房機器等更新工事の概要について
			美浜町給食センター学校給食調理・配送等業務受託業者の選考等について
			美浜町東地区プール等の一般開放について
			令和 5 年度美子連事業計画等について
			第 1 回美浜町新着任教職員人権教育会（振り返り）について
			前期学校訪問（参観授業等）について

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 7 回	7 月 12 日	連絡・報告事項	令和 5 年度（令和 4 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
			令和 5 年度 6 月補正予算（生涯学習推進課） について
			第 4 3 回全日本中学選手権競漕大会について
			第 3 6 回美浜町民レガッタについて
			令和 5 年度全国高等学校総合体育大会等について
			第 2 8 回美浜町子ども会ミニバレーボール大会について
			令和 5 年度青少年愛護センター事業計画について
			夏季休業中における学校閉鎖について
第 8 回	8 月 2 日	議案第 12 号	和 6 年度使用小学校教科用図書の採択について
		議案第 13 号	令和 5 年度（令和 4 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
		連絡・報告事項	後期学校訪問および特別支援教育に関する学校訪問について
			佐竹良三郎奨学英基金貸付対象者（国外大学進学等）について
			令和 5 年度東海北陸地区町村教育長研究協議会説明資料等について
			ふるさと美浜元気プロジェクトだよりについて
第 9 回	8 月 23 日	議案第 14 号	就学すべき学校指定変更申請について
		議案第 15 号	令和 5 ・ 6 年度なびあす自主文化事業企画委員会委員の選任について
		連絡・報告事項	令和 5 年度（令和 4 年度事業対象）教育委員会自己点検・評価報告書について
			美浜町教育委員等の任命について
			令和 5 年度 9 月補正主な関係予算について
			なびあすアートフェスタ 2 0 2 3 について
第 10 回	9 月 29 日	協議事項	教育長・教育委員の職務分担について
		連絡・報告事項	教育委員会関係行事予定表ついて
			教育委員会歓送迎会について

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 11 回	10 月 2 日	議案第 16 号	教育委員の職務分担について
		議案第 17 号	町政功労表彰候補者について
		連絡・報告事項	生涯学習推進課 9 月補正予算計上事業等について
			なびゲーランドの開催について
			教育委員会学校訪問について
			各学校後期校内研究会について
			若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会について
			教育委員会関係行事予定表について
			令和 6 年美浜町 20 歳のつどいについて
			教育委員会歓送迎会について
第 12 回	11 月 15 日	連絡・報告事項	学校訪問・各委員研修会等の感想について
			教育委員会事務局 12 月補正予算計上について
			若狭国吉城歴史資料館ライトアップ及びナイトミュージアムの開催について
			なびあすアートフェスタ 2023 開催報告について
			美浜美術展の開催について
			文化財保存活用地域計画について
第 13 回	12 月 20 日	連絡・報告事項	令和 6 年美浜町 20 歳のつどいについて
			ふるさと美浜元気フォーラムの実施について
			令和 5 年度嶺南教育実践フォーラムの開催について
			学校訪問（特別支援教育）の日程等について
			美浜町歴史文化館臨時休館について
			若狭国吉城歴史資料館ナイトミュージアム実施状況について
			第 36 回美浜・五木ひろしふるさとマラソンについて
			第 19 回全国中学校選抜ローイング大会について
			令和 6 年度教育委員会の自己点検・評価報告書について

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 1 回	1 月 31 日	議案第 1 号	区域外就学について
		議案第 2 号	区域外就学について
		議案第 3 号	区域外就学について
		議案第 4 号	区域外就学について
		議案第 5 号	区域外就学について
		議案第 6 号	就学すべき学校指定変更について
		議案第 7 号	就学すべき学校指定変更について
		議案第 8 号	就学すべき学校指定変更について
		議案第 9 号	就学すべき学校指定変更について
		連絡・報告事項	美浜町給食センター学校給食調理・配送業務受託業者の選考及び決定について
			小・中学校の卒業式・入学式について
			大谷翔平選手によるグローブの寄付に係る各小学校贈呈式について
			令和 6 年福井県市町教育委員会連絡協議会総会および研修会等の開催について
第 2 回	2 月 28 日	議案第 10 号	就学すべき学校指定変更について
		議案第 11 号	美浜町放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例の制定について
		議案第 12 号	美浜町高等学校等生徒通学費助成金交付要綱の一部を改正する要綱について
		議案第 13 号	令和 6 年度福井県義務教育諸学校教科用図書採択嶺南地区協議会の設置について
		議案第 14 号	令和 6 年度小学校英語活動推進事業美浜町外国語指導助手（A L T）派遣業務について
		連絡・報告事項	美浜町給食センターの管理運営等について
			令和 6 年度当初予算計上等について
			美浜町教職員離着任式について

区分	開催日	番 号	議 題 名 等
第 3 回	3 月 27 日	議案第 15 号	区域外就学について
		議案第 16 号	美浜町立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について
		連絡・報告事項	令和 6 年度教職員人事異動について
			令和 6 年度美浜町職員人事異動について
			令和 6 年度美浜町会計年度任用職員について
			小・中学校入学式について
			地域活性化のための人材育成について

【総合教育会議】 1 回

区分	開催日	協 議 ・ 調 整 事 項
第 1 回	7 月 12 日	各学校の状況とスクールプランについて
		美浜『地域愛』フィールドトリップ事業について
		子ども政策の方向性について
		みはまシナプスプロジェクトについて

【学校訪問】

教育委員会学校訪問

6 月 1 6 日 美浜中学校授業参観	1 0 月 2 5 日 美浜中学校授業参観
6 月 2 0 日 美浜中央小学校授業参観	1 0 月 3 1 日 美浜中央小学校授業参観
6 月 2 2 日 美浜東小学校授業参観	1 1 月 2 日 美浜西小学校授業参観
6 月 2 3 日 美浜西小学校授業参観	1 1 月 1 5 日 美浜東小学校授業参観
9 月 2 7 日 美浜中央小学校授業参観（特別支援教育）	1 月 2 6 日 美浜東小学校授業参観（特別支援教育）

※各委員が個別に授業参観で学校を訪問しています。

【教育関連施設訪問】 2回

月日	時間	施 設 名 等
11 月 15 日	15 : 20～	歴史文化館 文化財保存活用地域計画について等
12 月 20 日	15 : 40～	北西郷公民館 北西郷公民館の取り組みについて等

【教育委員研修】

月日	場所	研 修 名 等
5 月 26 日	勝山市	福井県市町教育委員会連絡協議会研修会
11 月 13 日	高浜町	若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会 禅宗を世界に広めた高浜の高僧 釈宗演について等

美浜町教育委員会の自己点検・評価シート

教育委員会はその権限に属する事務の管理・執行状況等の点検・評価を行い、教育委員会の活動を一層活性化することにより、学校教育・社会教育の充実を図り、生涯学習のまちづくりに資することを目指して自己点検・評価を進める。

大項目	中項目	小項目	点検・評価	R4			R5			No.
				自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
1 教育委員会の活動	(1)教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	予定した定例会(12回)全てを開催。	A	A	A	A	A	A	1
		②教育委員会会議の運営上の工夫	委員全員が出席できるように日程の調整を図った。 会議開催時に合わせ現地視察を実施。	A	A	A	A	A	A	2
	(2)教育委員会の会議の公開、保護者 住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	会議の開催の公表はしているが、傍聴者はなかった。	—	—	—	D	D	D	3
		②議事録の公開・広報・公聴活動の状況	会議の日程、審議された議案名をHPで公開。	B	B	C	B	B	B	4
	(3)教育委員会と事務局の連携	教育委員会と事務局の連携	事務局員 6人出席。案件によっては担当課から説明を求めるため出席を依頼。	B	B	B	B	B	B	5
	(4)教育委員会の自己研鑽	研修会への参加状況	若狭地方教育委員会連絡協議会教育委員研修会、市町女性教育委員の会などへ参加。	B	B	B	B	B	B	6
	(5)学校及び教育施設に対する支援・ 条件整備	①学校訪問	研究授業等での学校訪問を実施。 6/16美浜中、6/20中央小、6/22東小、6/23西小、10/25美浜中、 10/31中央小、11/2西小、11/15東小に各教育委員が出席。	A	A	A	A	A	A	7
		②所管施設訪問	11/15 美浜町歴史文化館 12/20 北西郷公民館	A	A	B	B	B	B	8

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	中項目	小項目	点検・評価	R4			R5			No.
				自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1)教育行政の運営に関する基本方針を定めること		・美浜町教育大綱(令和3年度～)及び美浜町教育振興計画(令和3年度～)に基づき、教育行政の業務方針等の協議を実施。 ・総合教育会議(町長主宰)を開催し、スクールプランや町の取り組み等について情報共有し、教育行政の推進に努めた。	B	B	B	B	B	B	9
	(2)教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること		・美浜町放課後児童クラブ条例の一部改正 ・美浜町立学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定 ・美浜町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定	B	B	B	B	B	B	10
	(3)教育予算その他議会議決を経るべき議案の原案を決定すること		当初予算及び補正予算等の審議と議決	B	B	B	B	B	B	11
	(4)教育委員会の所管に属する学校その他教育機関を設置し、又は廃止すること		評価案件なし	—	—	—	D	D	D	12
	(5)教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関すること		・美浜町立図書館協議会委員の任命 ・美浜町生涯学習推進委員(社会教育委員・公民館運営審議会委員を兼ねる)、美浜町給食センター運営委員会委員、なびあす自主文化事業企画委員会委員の委嘱等	B	B	B	B	B	B	13
	(6)教科用図書の採択等の決定に関すること		・令和6年度使用小学校教科用図書の採択の承認 ・令和6年度福井県義務教育諸学校教科用図書採択嶺南地区協議会の設置の承認	B	B	B	B	B	B	14
	(7)通学区域を設定し、又は変更すること		評価案件なし	—	—	—	D	D	D	15
	(8)文化財指定し、又は指定を解除すること		評価案件なし	—	—	—	D	D	D	16
	(9)請願、陳情、訴訟及び異議の申し立てに関すること		評価案件なし	—	—	—	D	D	D	17

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4		R5		No
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	1 生涯学習の推進	1-1 学習機会の充実	○子どもの文化事業の実施(1-1-1) ◇なびあす子ども合唱団の育成 異年齢同士の関りから学ぶ社会生活に必要なコミュニケーション能力の育成	○子どもの文化事業の実施 ◇なびあす子ども合唱団 ・団員数37人(R6.3月現在) ポコアポコクラス17人ノビアチェボーレクラス20人 美浜町19人、敦賀市6人、若狭町12人 ・37レッスン、ステージ6回 (五木ひろしふるさとチャリティーコンサート、3周年記念コンサート、美浜町町制施行70周年記念式典アトラクションなど)	○子どもの文化事業の実施 ◇なびあす子ども合唱団 ・たくさんのステージ経験やレッスンを通して、町内・町外に関係なく異年齢の関りが増え、互いに励まし合ったり、大きい子は小さい子に優しく声をかけたり、高学年がチームリーダーとなってメンバーをまとめるなど団員同士の絆も生まれ、保護者からも歌以上の経験をさせてもらっている(と喜ばれている。学校に行きにくい子ども合唱団なら行けると参加できており、とてもいい雰囲気で行活動できている。 ・設立時からの集大成として3周年記念コンサートを開催し、団員は大きな達成感を得ることができ、保護者、観客から好評を得る。以降、活動の認知度が上がり、問い合わせも増え、町民の新たな加入が増加。	—	—	—		
			◇なびあす学びの森の実施 様々な文化体験による生きていく上で大事な能力(思考力、判断力、応用力、表現力、柔軟性)の育成	◇なびあす学びの森 ・親子で参加できるワークショップ10イベント実施(なびとしよ島、アート島、ふるさと宝島、音の島、サイエンス島、ネイチャー島) ・総参加人数 199名	◇なびあす学びの森 ・新たにサイエンス島とネイチャー島が増え、様々なジャンルの文化体験を実施できた。 ・中学生～高校生が参加したくなるイベントの開催が難しい。					
			○はあとふる学園の実施(1-1-4) 60歳以上の高齢者が健康で豊かな人生を送り、仲間の輪を広げながら楽しく学ぶ講演会等のカリキュラム。	○はあとふる学園の実施 ・町民主体の企画委員が計画 ・6月～2月にかけて講座9回、館外研修1回、全10回 ・総参加人数 71人	○はあとふる学園の実施 ・前年度より参加者を増やす工夫として、楽しく学ぶイメージにするため「はあとふる大学」から「はあとふる学園」に名称を変更し、体験型の講座を多く取り入れた。 ・チラシをA3両面刷りに変更し、講座内容などもわかりやすく掲載し募集したことにより、参加者28人増と大きく上回る結果となった。(前年比165%)	B	B	B		
			○各種講座の実施(1-1-5) ◇浜さん講座 生涯学習まちづくり出前講座として、行政職員が地域に出向き実施	○各種講座の実施 ◇浜さん講座 ・計7回実施 ・総参加人数 214人(平成17年から開始 延べ回数355回) ・内容:図書館3件、上下水道3件、鳥獣対策1件	○各種講座の実施 ◇浜さん講座 ・講座のメニューは大きな偏りなく開催され、講師の説明がわかりやすかったとの感想があり、各担当課の対応も良かったが、前年度の開催実績に及ばなかった。 前年度13講座、総参加人数305人					
			◇なびあす講座 趣味、教養、健康、学習等の観点から講座を実施	◇なびあす講座 ・前期7講座、後期8講座(各講座全3回) ・総参加人数 114人(130人募集)	◇なびあす講座 ・全講座が開催基準の定員を満たし、前年度並みの参加人数を維持できた。 ・「ときめくはんどめいど」講座から、自立したサークル活動に発展し、生涯学習の入口となることができた。 前年度14講座、総参加人数112人(130人募集)	B	B	B	B	B
			◇なびあす学びの森【再掲】 高校生生までを対象とした様々な文化体験ができる親子のワークショップを実施	◇なびあす学びの森【再掲】 ・10イベントのワークショップを実施(なびとしよ島、アート島、ふるさと宝島、音の島、サイエンス島、ネイチャー島) ・総参加人数 199人	◇なびあす学びの森【再掲】 ・参加者は楽しみながら新しい知識を得ている。 ・親子で参加するワークショップは保護者にも好印象で、親子で過ごす時間も思い出となっている。					
			○各種文化団体の活動推進(1-1-6) ◇美浜町文化協会の活動推進 美浜町文化協会育成補助と運営支援	○各種文化団体の活動推進 ◇美浜町文化協会 ・第29回美浜町文化協会展 参加6団体 ・第42回福井県市町文協選抜美術展 参加6団体 ・第32回福井県市町文協選抜芸能祭 参加1団体 ・なびあすアートフェスタ2023文化交流祭 参加数…展示部門6団体、ステージ部門9団体、体験部門1団体	○各種文化団体の活動推進 ◇美浜町文化協会 ・美浜町総合体育館で開催した「福井県市町文協選抜美術展」に、特別併設展として町内6団体、計45点の作品を展示して、出展者の製作意欲を促した。(会場輪番) ・「美浜町文化協会展」を主催するとともに、「なびあすアートフェスタ文化交流祭」に参加し、日頃の活動の成果を披露する場を提供し、文化協会に所属する多くの団体の参加に繋げた。	—	—	—		
			◇ArtFoxの活動推進 なびあす若者実行委員会イベント運営補助と運営支援	◇ArtFoxの活動推進 ・なびゲーランド(11/11・12) 来場者1,557人 ※はまなびフェスタ2023と同時開催 ・なびゲーランド感謝祭(3/9) 来場者337人	◇ArtFoxの活動推進 ・今年度からイベントの企画運営及び予算を自主管理したことで、次年度に向けた運営体制の強化を図れた。 ・「なびゲーランド」は2日間開催で、新たなコンテンツを追加したくさんの親子連れの来場があった。 ・余剰予算を活用して、委員が自発的になびゲーランド感謝祭を開催し、スタッフ自身も楽しむことのできるイベントが開催できた。					
			◇なびあすコーラスラインの活動推進 なびあすコーラスライン運営事業補助と運営支援	◇なびあすコーラスラインの活動推進 ・コーラスライン合同練習会(年間計15回) ・男声合唱団サミット in みはま 2023 参加5団体 ・ふるさと合唱コンクール in みはま 参加7団体 ・ランチタイムコンサート～合唱団Youthを迎えて～	◇なびあすコーラスラインの活動推進 ・「ふるさと合唱コンクール」や「ランチタイムコンサート」など、例年より多く活動することができた。					

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		1-2 学習施設の整備及び管理運営	○生涯学習センター管理事業(1-2-1) 生涯学習センターなびあすの維持管理のため、館内外の設備保守点検や各種修繕工事を実施	○生涯学習センター管理事業 ①各種設備点検業務 ・空調設備点検業務、舞台機構点検業務、舞台音響設備等点検業務、調光装置点検業務など ②各種修繕工事 ・空調設備改修工事 ・照明設備更新工事(趣味の部屋) (令和5年度施設利用者数 23,507人)	○生涯学習センター管理事業 ・点検にて指摘を受けていた「空調設備の不良箇所」については、全て改修することができた。 ・「趣味の部屋」は空調設備改修に合わせて、照明器具についてもLEDに更新することができた。	B	B	B	B	B	B	19
			○公民館管理事業(1-2-2) 地区公民館の利用を促進するため、地区公民館及び分館の維持管理のため設備点検や修繕工事等の実施	○公民館管理事業 ①施設管理運営業務 ・施設周辺除草業務、電気設備点検業務、遊具保守点検業務 など ②各種修繕工事 ・給水施設復旧工事、トイレ修繕 など (令和5年度地区公民館施設利用者数 4館合計 10,183人)	○公民館管理事業 ・各地区公民館の施設管理及び安全を図り、安全で快適な公民館利用を図ることができた。	—	—	—				
		1-3 学習情報の充実	○なびあす通信、生涯学習カレンダーの配布(1-3-1) 町民への情報発信誌の作成・配布。	○なびあす通信、生涯学習カレンダーの配布 ◇なびあす通信 ・4～3月 計12回発行(4400部×12回) ・広報みはまに挟み込み、月1回全戸配布 ◇生涯学習カレンダー ・上、下半期 計2回、全戸配布 ・R5年度で廃止	○なびあす通信、生涯学習カレンダーの配布 ◇なびあす通信 ・なびあすのイベント、生涯学習情報を発信し、広報媒体として役割を果たせた。 ◇生涯学習カレンダー ・“生涯学習”の掲載が少なく、本来の役割を果たしていない一方、各課のイベントや検診は適切な媒体(ホームページや防災アプリ等)で情報発信ができるため廃止し、事務の合理化を図った。	C	C	C	B	B	B	20
			○ホームページやなびあす通信による生涯学習情報の提供(1-3-2) ◇なびあすホームページの発信 なびあす独自のホームページを管理し、イベント・講座等の情報を発信 ◇なびあす通信の発行 生涯学習情報誌を作成・配布し、歴史関係や図書館を含む生涯学習に関する情報を発信	○ホームページやなびあす通信による生涯学習情報の提供 ◇なびあすホームページ ・なびあすと役場のホームページを連動 ・イベント、講座受講生募集等、随時更新 ・ホームページ担当で全体の管理実施(新着情報等の調整、全体の表記統一等) ◇なびあす通信【再掲】 ・4～3月 計12回発行(4400部×12回) ・広報みはまに挟み込み、月1回全戸配布	○ホームページやなびあす通信による生涯学習情報の提供 ◇なびあすホームページ ・なびあすのイベント、生涯学習情報を発信し、広報媒体として役割を果たせた。 ・施設予約、各申し込み等の申請手続きに、リンクファイルを利用者が活用できている。 ◇なびあす通信【再掲】 ・なびあすのイベント、生涯学習情報を発信し、広報媒体として役割を果たせた。	B	B	B				
		1-4 人材の育成	○なびあす講座の実施(1-4-1)【再掲】 趣味、教養、健康、学習等の観点から講座を実施	○なびあす講座の実施【再掲】 ・前期7講座、後期8講座(各講座全3回) ・総参加人数 114人	○なびあす講座の実施【再掲】 ・全講座が開催基準の定員を満たし、前年度並みの参加人数を維持できた。 ・「ときめくはんどめいど」講座から、自立したサークル活動に発展し、生涯学習の入口となることができた。 前年度14講座、総参加人数112人(130人募集)	B	B	B	B	B	B	21
			○葉Libの人材発掘(1-4-4) ○有償ボランティアの育成(1-4-6) ◇なびあすサポーターの育成 公演時のレセプションистや舞台の裏方スタッフの育成 ◇葉Libの育成 図書館の運営補助スタッフの育成	○葉Libの人材発掘 ・部員募集チラシ配布(年1回) ○有償ボランティアの育成 ◇なびあすサポーター ・登録者数 24人(町内18人、町外6人) ・活動日数 22日間 ・参加者数 109人 ◇葉Libの育成 ・部員12人 ・清掃、図書返本作業(毎週日曜日/2人) ・イベント補助(なびとしよ島、キッズデー) ・移動図書館補助(図書移動、読み聞かせ)	○葉Libの人材発掘 ・3人の部員増加が図れた。 ○有償ボランティアの育成 ◇なびあすサポーター ・経験年数のあるサポーターが多く、公演時は来場者からも丁寧な対応と好評 ・公演ごとにいろいろな役割を担ってもらっているが、得意不得意が見られるため、どの配置でも対応できるよう育成が必要。影アナが特に苦手な方が多い。 ◇葉Libの育成 ・各作業毎に参加者を募り、図書館サポーターとして図書館事業へ参加出来た。	—	—	—				

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		1-5 推進体制の整備	○生涯学習推進体制の整備(1-5-1) 生涯学習を推進するため、生涯学習推進体制を整備	○生涯学習推進体制の整備 ・生涯学習推進体制の現状を把握し、提言書「地域活性化のための人材育成について」において、生涯学習推進体制の見直しについて提言	○生涯学習推進体制の整備 ・ここ数年生涯学習推進連絡会や生涯学習推進本部が十分に機能していなかったため、生涯学習の推進にやや停滞感がみられた。	B	B	B	B	B	B	22
		○なびあすアートフェスタ運営委員会(1-5-2) なびあすアートフェスタ運営委員会と関係各課が連携を図り、生涯学習を推進 《構成メンバー》 生涯学習推進委員会、美浜町人権教育研究会、美浜町文化協会、美浜の学び楽しみ隊	○なびあすアートフェスタ運営委員会 なびあすアートフェスタ2023開催(10/28～11/12) ・オープニングイベント(10/28) 子どもたち(美方高校・美浜中学校・なびあす子ども合唱団)によるステージ発表やトランペット☆ヒーローズのコンサートを開催。 ・なびあすファンクラブ開設記念 iroriコンサート(10/29) ・文化交流祭(10/28～11/5) 展示部門(24団体)・ステージ部門(22団体)・体験部門(4団体) ・なびゲーランド(11/11・12) ・運営委員会…3回開催(来場者数 計4,332人)	○なびあすアートフェスタ運営委員会 ・「オープニングイベント」や「文化交流祭」を開催することで、町内で活動している文化団体の活動の成果を披露する場を提供することができ、多くの来場者にも楽しんでいただいた。 ・期間中は「美浜つながるフェスタ」、「はまなびフェスタ」と連携し、美浜町制施行70周年記念イベントとして大きな役割を果たすことができた。	—	—	—					
	2 学校教育の充実	2-1 学校教育環境の整備・充実	○施設維持管理(2-1-1) 学校及び関連施設の維持管理各種修繕工事	○施設維持管理 【主な工事】 ・中央小体育館渡り廊下屋根防水改修工事 ・中央小体育館照明器具修繕工事 ・東小インターホン修繕工事 ・西小グラウンド改修工事測量・調査・実設計業務委託 ・美浜中メディアホール系統然熱交換器修繕工事	○施設維持管理 ・各学校の経年劣化等による不具合箇所について、随時修繕を実施することが出来た。 ・西小グラウンドの排水改善に向けて、年度内に実施設計を完了した。	C	C	C	A	A	A	23
	○スクールバス運行業務(2-1-1) 登下校バスや校外学習活動に関するバスを運行	○スクールバス運行業務 ・小学校登下校送迎バス(西・新庄・東方面) ・中学校登下校送迎バス(西・新庄・東方面) ・小中学校校外活動送迎バス(69回) ・エネルギー環境教育推進事業送迎バス(12回) ・中学校部活動等送迎バス(大会及び見学等)	○スクールバス運行業務 ・通常の登下校バスや校外学習活動に関するバスを学校の要望どおり運行することができた。 ・バスの乗降場所が危険な箇所については、バス会社と連携して安全な場所へ変更するなどの対応を行うことができた。	A	A	A						
	○教材備品の整備(2-1-1) 学校の教材備品(学校図書館の本を含む)を整備	○教材備品の整備 ・各学校から要望のあった教材備品を整備 ・教材備品(書架・可動式黒板・ベンチ等 359点) ・学校図書(西小:284冊、中央小:262冊、東小:257冊、美浜中:257冊)	○教材備品の整備 ・小中学校教材整備指針(令和元年一部改訂)に基づき、小中学校のニーズを踏まえた教材備品の整備・充実を図った。	A	A	A						
	○高等学校等通学費助成(2-1-2) 保護者の経済的負担軽減のため、高等学校等に就学する生徒の通学に要する経費の一部を助成 ○佐竹良三郎奨学育英基金 大学生への学資貸与	○高等学校等通学費助成 ・通学助成利用人数 延 206人 ○佐竹良三郎小学育英基金 ・奨学金利用人数 3人(内新規0人) ・延利用者数 21人	○高等学校等通学費助成 ・通学助成により、教育に係る保護者の経済的負担を軽減することができた。 ・学校へお知らせを配布したり、広報やホームページ等を使用し周知を行うことができた。 ・北陸本線の三セク移行に伴い、要綱を改正し、助成対象の枠を広げた。 ○佐竹良三郎奨学育英基金 ・学校へお知らせを配布したり、広報やホームページ等を使用し周知を図った。	A	A	A						
	○学校ICT環境整備事業(2-1-3) 教職員の事務処理の効率化やシステム管理負担を軽減し、児童・生徒と向き合う時間を確保する。また、快適なICT環境を整備することで情報機器の効果的な活用を促進し、楽しく学べる学習環境を拡充するなど教育の質の向上を図る。	○学校ICT環境整備事業 ・児童・生徒1人1台のタブレット端末を積極的に活用した授業を実施。 ・各小中学校のタブレットにクラウド上でWebフィルタリングを導入。 ・保護者向け情報発信ツール「Home&School」を導入。	○学校ICT環境整備事業 ・クラウド上のWebフィルタリングを整備したことで、学校以外のネットワークでも安全にタブレットを使用することができ、持ち帰り学習の推進を図ることが出来た。 ・Home&Schoolの導入により、保護者への一斉通知やアプリによる欠席連絡等が可能になり、教職員の作業負担軽減に繋がった。	A	A	A						
	○学校ICT教育推進事業(2-1-3) 児童・生徒が主体的・共同的に思考・判断・表現できる新しい学びの機会を創出するため、ICT支援員を配置し、すべての教科でICTを日常的に活用することにより、学校ICT教育の推進を図る。	○学校ICT教育推進事業 ・各学校にICT支援員を配置 ・各学校:月2回 ・ICT機器の使用方法や支援ソフト、デジタルドリルの活用など、教職員にICT全般のサポートを行った。	○学校ICT教育推進事業 ・各学校にICT支援員を配置し、教職員へのICTサポートを充実させることで、タブレット端末の活用促進に繋がった。	A	A	A						
	○部活動指導員の配置(2-1-5) 教員の働き方改革の実現を図るため、中学校に部活動指導員を配置。 ○地域スポーツ指導者の配置(2-1-5) 運動部活動等に、専門的な技術指導ができる地域スポーツ指導者を配置し、生徒への技術指導の充実を図る。	○部活動指導員の配置 ・1人配置(男子卓球クラブ) ○地域スポーツ指導者の配置 ・2人配置(女子卓球部・男子ソフトテニス部)	○部活動指導員の配置 ・部活動指導員配置により、年間548時間の顧問業務の負担軽減を図ることができた。 ○地域スポーツ指導者の配置 【学校からの成果報告より】 ・女子卓球部…技術だけでなく、精神面も教えていただいた。生徒の卓球に対する理解度、意欲が高まった。 ・ソフトテニス部…生徒に寄り添った指導により信頼関係を構築し、団体戦にて県3位に入賞、個人戦にて県大会に3ペア出場することができた。	A	A	A						

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		2-2 学力・体力の向上と特色ある教育の推進	○学力調査(2-2-1) 学習指導の基礎資料とするため、学力調査を実施	○学力調査 ・町独自の学力調査 小学校 1・2年生 国・算(CRT標準学力調査) 3・4年生 国・数・理(CRT標準学力調査) 中学校 1・2年生 国・数・社・理・英(2年生のみ) 意識調査(ベネッセ学力調査) ・全国学力・学習状況調査 小学校 6年生 国・算 中学校 3年生 国・数 ・福井県学力調査(SASA) 小学校 5年生 国・算 ・生活や学習、学級に関する調査(質問調査) 6、11月に調査(小3～6年生 中1～3年生対象)	○学力調査 ・左記の調査を行うことにより、児童生徒の学力を見極め、個別最適な学習指導に役立てることができた。 ・町HPIにて、全国学力・学習状況調査及び生活や学習、学級に関する調査の分析結果を公表し、保護者等に周知を図った。	B	B	B				24
			○ふるさと美浜元気プロジェクト等の実施(2-2-3) 児童・生徒が自らの地域の課題等を改善する体験学習を実施することで、美浜で育つ子どもたちの郷土愛を育み、将来自らの意思で美浜に住むことを選択し、地域のために自分で考え行動を起こすことのできる人材を育成。	○ふるさと美浜元気プロジェクト等の実施 ・3校各学年の共通テーマにより調査を行い、総合体育館で実践発表。 ・地域愛学習の促進 令和6年1月19日総合体育館でフォーラムを実施。 ・小学校の3年生から6年生までが、年間の学習計画を立てて実施。課題解決のアイデアを考える体験をし、3校合同のフォーラムで提案。	○ふるさと美浜元気プロジェクト等の実施 ・ふるさと美浜元気プロジェクトでは、児童たち自身による地域の問題提起と解決案の作成を通し、地域活動への自発的取り組みを行う人材育成を図ることが出来た。 ・6年生の町内各所で行われた探究学習については、美浜中学生、美方高校生も参加した小中高連携のオンライン会議で発表方法のアドバイスをもらったり、調査に際し社会福祉協議会と交流を持つなど、学校外での交流も盛んに行われた。	A	A	B				
			○中学校社会体験活動の推進(2-2-3) 町内公共施設や企業等への施設見学の実施や、地域の職場において就労を体験。様々な体験を通し、夢や希望を持ち、進路選択への意欲を高める。 ○校外学習の実施(2-2-3) 児童・生徒が自らの地域の課題等を改善する体験学習を実施することで、ふるさと福井に誇りや愛着を持ち、新たな活力の創出を図る。 ○美浜『地域愛』フィールドトリップ事業(2-2-3) 次代を担う子どもたちの地域への愛着・誇りを醸成させるため、児童生徒や教員が地域のことを知り、人とふれあい、美浜町のことを深く知ってもらうことを目的に町内の主要観光施設をめぐるフィールドトリップを実施する。	○中学校社会体験活動の推進 ・キャリア教育として地元企業の職場体験を実施。体験通じて地域で働く人々の仕事に対する姿勢や思いを学ぶ。 ・社会体験活動…保育園、社会福祉協議会、町内事業所等 ○校外学習の実施 ・校外学習での体験活動等を通じて、地域への愛着心を育む。 ・小学校…電池推進船乗船、トマト栽培、釣り体験等 ・中学校…シンジミ漁体験、トレッキング等 ○美浜『地域愛』フィールドトリップ事業 ・美浜レイクセンター電池推進遊覧船乗船 (各学校教員・西小:5年生、中央小:4・5・6年生、東小:4年生) 町内各所(美浜中:1年生)	○中学校社会体験活動の推進 ・中学校では、地元企業の職場体験を実施し、体験を通じて地域社会とのつながりを深め、現実の職場環境を知ること、キャリアの選択肢を広げ、地域への就労意欲の向上を図ることが出来た。 ○校外学習の実施 ・校外学習では地域体験活動等を通じて、自然と触れ合う機会を提供し、探求心を刺激することで、子ども達の想像力やコミュニケーション能力の向上を促進することが出来た。 ○美浜『地域愛』フィールドトリップ事業 ・教員や児童生徒が、町内の施設等を体験し、地域の魅力の新たな発見触れ、地域への愛着や誇りの醸成に繋がった。	A	A	A				
			○小学校英語活動推進事業(2-2-5) 小学校における英語教育の充実のため、外国人講師を小学校に配置。児童に英語への興味・関心を持たせることで、英語学習に係る中学校への円滑な接続を図る。	○小学校英語活動推進事業 ・ALTを小学校3校に派遣(ALT2人) ・英語学習に係る教員研修の実施(8/9実施) ・内容:スキットやペア相談、ICT活用の授業など、児童の英語学習の導入に役立つ方法 ・R6年度からの業者選定	○小学校英語活動推進事業 ・各小学校にALTを配置することで、身近に児童・生徒が英語に慣れ親しみ、外国の文化を学ぶことができた。 ・担任の授業サポートを行うことにより児童の英語力の向上につながった。	B	B	B				

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No	
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価			
		2-3 児童・生徒の心身の健全育成	○生活リズムの向上(2-3-1) 正しい睡眠リズムと食習慣を身につけるため、「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進し、健全な心身の育成に努める。	○生活リズムの向上 ・就学時健康診断において、規則正しい生活リズムの大切さについての保護者向け研修会を実施。 講師：寺腰 優子先生 内容：「就学に向けて 今できること」 西小(10/24)、中央小(10/10)、東小(10/12)	○生活リズムの向上 ・就学を迎えるにあたり、子の生活リズムや、就学に向けた準備などについての講演を実施し、規則正しい生活リズムの大切さについて意識を高めることができた。	—	—	—				25	
			○食育の推進 ①『親子ふれあい食育事業』(2-3-7) 町内各小学校の新1年生及びその保護者を対象とし、学校栄養教諭の指導のもと、保護者と児童と一緒に会食しながら、食育授業を開き、学校と家庭との食事の関わりについての情報共有を図る。 ②地元の豊かな食材を学ぶ(2-3-6) 地元の豊かな食材について学ぶ機会を学校給食で取り組み、JA美浜支店、町内納入業者と連携し、優先的に美浜町産の食材を取り入れる。 ③食に関する授業の開催(2-3-8) 健康福祉課の「げんげん歩楽寿」の一環として、町管理栄養士と学校栄養教諭とが連携し、各小学校で食に関する授業を開催。塩分摂取、生活習慣病、おやつとの摂取による影響等を考える。 ④食物アレルギー対応食の提供(2-3-5) 対象者に、食物アレルギー対応食を実施。また、小麦、乳、卵などの食物アレルギー不使用の調味料や加工品を用いることで、全員が一緒に学校給食を食べることができる機会を増やしていく。	○食育の推進 ①『親子ふれあい食育事業』 各小学校 1回実施(合計 児童70人、保護者61人参加) ②地元の豊かな食材を学ぶ ・町内地場産食材の活用 JA福井県ひはま支店、JF福井漁連敦賀支所、地元納入業者等と連携し、町内地場産食材を取入れた。 町内地場産食材…サツマイモ、いちご、トマト等 ③食に関する授業の開催 ・町内小中学校の全学年で実施(年1回) ・「げんげん歩楽寿」の取り組みを、児童にわかりやすいよう味覚体験を取り入れ、具体的に指導。 ④食物アレルギー対応食の提供 対象児童生徒(19人) 保護者と連携を図り、対応食、除去食などきめ細やかに対応。 例：アレルギー対応食…卵、乳、小麦、えび、かに、いか、たこ等	○食育の推進 ①『親子ふれあい食育事業』 ・各小学校の新1年生の保護者を対象に給食参観と食育座談会を行い、保護者の理解を得ることが出来た。 【参加者感想より抜粋】 食べる前の準備から食べ終わりまで見れて良かった 改めて食育について考えるいい機会になった 等 ②地元の豊かな食材を学ぶ ・学校給食を食べながら地元でとれた新鮮な食材に触れて味わうことで、生産者の皆さんが心を込めて作られた野菜等に感謝する気持ちを育てることと、残食軽減に繋がった。 ③食に関する授業の開催 ・小学2年生には牛乳の成分や効果について学習指導し、小学5年生に対しては「だし」に関する授業の中で、だしづくりが減塩に繋がることを学んでもらった。 ④食物アレルギー対応食の提供 ・乳や卵などの不使用マヨネーズ等を普段から取り入れ、対象者へきめ細やかな対応食を提供できた。 ・児童生徒全員が同じ学校給食を食べる機会の提供に取り組むことができた。	A	A	A		A	A		A
			○学校給食への地場産食材の活用、郷土食、和食の推進(2-3-6) 学校給食で地場産(美浜町産・福井県産)食材を活用し、郷土食、年中行事食等を学校給食風にアレンジする。また、子ども子育て支援プロジェクトの一環として、町独自に『美し美浜プレミアム学校給食』を実施。	○学校給食への地場産食材の活用、郷土食、和食の推進 ・地場産食材の活用 「こどもの日」、「七夕」、「十五夜」「目の愛護デー」「ハロウィン」「冬至」、「クリスマス」、「お正月」「節分」、「ひな祭り」など、年中行事時期に合わせて、学校給食を工夫して提供。(年間約30回) 郷土食…ふくいサーモン、ソースカツ丼等 年中行事食…かぼちゃのフライ、月見団子汁等 『美し美浜プレミアム学校給食』 毎月1回、年間11回実施 町負担で1人1食当たり200円を上乗せして給食を提供。 ・北陸新幹線敦賀駅開業を記念してウエルカム給食を実施(計8回) ・美浜町制70周年を記念したパースデー献立を実施	○学校給食への地場産食材の活用、郷土食、和食の推進 ・毎月行っている「アイアン献立」「ハッピー献立」「ふるさと献立」を中心に、「季節の献立」「減塩献立」「和食の献立」「卒業おめでとう献立」など、毎月色々なアイデアを取り入れ、児童生徒が給食に関心を持てるよう創意工夫を凝らすことが出来た。 ・北陸新幹線が敦賀駅まで延伸開業されることを記念して、9月から2月にかけて始発である東京から終着福井までの8都県にまつわる郷土料理を、学校給食で実施した。 (例：東京都…ちゃんこ鍋、もんじゃ春巻き、富山県…白エビのかき揚げ等) ・美浜西小学校の児童が考案し、県のアイデアメニューコンテストに入賞したメニューを給食に取り入れたり、町制70周年を記念したパースデー献立を提供する等、多岐にわたり町独自の給食を提供することが出来た。	A	A	A					
			○学習支援員・生活支援員の配置(2-3-3) 各学校に学習支援員・生活支援員を配置し、児童生徒の学校生活や学習をサポート。 ○スクールカウンセラー配置(2-3-3) スクールカウンセラーの配置により保護者や児童生徒等のカウンセリングや教職員への指導助言をし、不登校やいじめ等の早期発見・早期対応を図る。	○学習支援員・生活支援員の配置 ・学習支援員・生活支援員 西小：5人、中央小：6人、東小：5人 美浜中：6人 ○スクールカウンセラーの配置(県・町) 小学校…1人配置(週1回 学校訪問) 中学校…1人配置(週3回 学校訪問) ・県スクールソーシャルワーカー(1人)配置 週1回 学校訪問	○学習支援員・生活支援員の配置 ・支援員を配置することにより児童生徒の支援と教員の負担軽減を図った。 ○スクールカウンセラーの配置 ・学校の状況に即した形でスクールカウンセラーを配置し、不登校や問題行動への早期対応、児童生徒の立ち直りを支援した。	A	A	A					
			○教育支援センター「なないろ」の運営(2-3-4) 不登校又は不登校傾向にある児童又は生徒の個々の状況に応じて、心の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談等を行うことにより、当該不登校児童等の教育の機会の確保や心理的発達、社会的自立への支援を行う。	○教育支援センター「なないろ」の運営 ・児童生徒の受け入れ 時間 9:30～15:00 場所 はあとびあ内2階	○教育支援センター「なないろ」の運営 ・安心できる居場所の提供ができた。 ・対象者の教育の機会の確保ができた。 ・対象者及びその保護者の相談及び支援が図れた。 ・家庭・学校及び関係機関等との連絡および調整並びに連携強化を図った。	—	—	—					

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		2-4 地域とともにある学校づくり	○「チーム学校」の実現(2-4-1) 子どもの安全を確保するため、学校内外で、地域と学校が連携し、安全で安心なまちづくりを推進。	○「チーム学校」の実現 ・通学路の安全確保 美浜町通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携し、危険箇所の安全対策を実施することで、通学路の安全を確保。 危険箇所安全対策箇所…22箇所 ・町内業者による歩行者止まれマーク設置(60力所)	○「チーム学校」の実現 ・通学路の安全確保を、地域と学校が連携して現場確認することで危険個所の対応を図った。 ・地域の見守り隊の活動により、児童の登下校時の安全確保ができた。	B	B	B	B	B	B	26
		○放課後児童クラブ(2-4-3) 保護者等が就労または疾病その他の事由により、昼間保育する保護者がいない児童を放課後児童クラブで預かる。	○放課後児童クラブ ・放課後児童クラブの児童受入れ 西児童クラブ…平日24人、長期休暇46人 中央児童クラブ…平日31人、長期休暇43人 東児童クラブ…平日27人、長期休暇42人 【主な過ごし方】 宿題・間食(おやつ)・遊びなど	○放課後児童クラブ ・町内3ヶ所で平日82人、長期休暇131人の児童を受け入れ、健全な充実した生活が送れるよう遊びや生活の場を提供した。 ・年々需要が高まっており、子育て支援施策としての効果はあるが、利用者の増加により開設場所や支援員の配置について課題があるため、より充実した受入体制の整備を図っていく必要がある。	B	B	B					
		2-5 保小中連携の推進	○保小中連携及び特別支援教育の充実(2-5-1) 各関係機関が連携し、移行支援や個別的教育支援計画等を作成することで、幼児教育から小学校、中学校教育への円滑な接続を行う。 また、学習支援員や生活支援員を配置し、特別な支援を要する児童・生徒のサポートを実施。	○保小中連携及び特別支援教育の充実 ・保小・小中連絡会の開催 特別な支援を要する幼児と小学校との個別連絡会及び小学校と中学校との個別連絡会を開催し、障がい内容について引継ぎを実施。 ・特別支援教育に係るブロック研究会を開催 年3回(研修会含む)開催 各学校特別支援教育コーディネーター、保育士、専門家等で組織。 特別支援教育体制について共通理解及び情報交換 ・就学支援委員会の開催 年3回開催 特別な支援を要する児童生徒について、学びの場を審議・判断	○保小中連携及び特別支援教育の充実 ・保小・小中連絡会の開催 個別連絡会を開催し、特別な支援を要する子の入学先学校へのスムーズな引継ぎができた。 ・特別支援教育に係るブロック研究会を開催 小学校や保育園を対象に、特別支援教育にかかるブロック研究会を開催し、障がい児の就学や就学相談等の在り方について共通理解をはかることができた。 ・特別支援教育に係る研修を開催することで、理解を深めることができた。 ・就学支援委員会の開催 審議・判断に基づいた児童生徒の就学を進めることができた。	A	A	A	A	A	A	27
	2-6 エネルギー環境教育の充実	○エネルギー環境教育推進事業(2-6-1) エネルギーや環境問題に対して課題意識を持ち、理解を深める。 また、このエネルギー環境問題の解決に向けて、適切に行動できる資質や能力を養う。	○エネルギー環境教育推進事業 ・エネルギー環境教育推進委員会等の開催(年4回) エネルギー環境教育体験館さいばすとの連携 児童生徒意識調査 各校のエコ活動について 等 ・エネルギー環境教育学習の実施(年3回 小中学校各学年) 児童生徒がエネルギー環境教育体験館さいばすを訪問し、エネルギー環境教育について学んだ。	○エネルギー環境教育推進事業 ・エネルギー環境教育推進委員会等の開催 委員会等を通じて推進委員の共通理解を図ることができた。 ・エネルギー環境教育学習の実施 さいばすでの学習を踏まえ、児童生徒のエネルギーや環境に関する知識の習得、探究学習に繋げることができた。	B	B	B	B	B	B	28	
		○エネルギー環境教育に係る教職員研修(2-6-1) 美浜町エネルギー環境教育カリキュラムをもとに、さいばす体験を中心とした授業を実施していくために、推進委員会が中心となり、教員を対象としたセミナー等を開催。	○エネルギー環境教育に係る教職員研修 ・新着任教員研修の実施(年各1回実施) 美浜町の新着任教員に対し、町独自のエネルギー環境教育に関する研修を実施。 ➢美浜町のエネルギー環境教育について ➢原子力関連施設視察研修 ・エネルギー環境教育セミナーの開催(年1回開催) 町内小中学校の教員に対し、町が進めるエネルギー環境施策について研修を実施。 美浜中学校の教員に対し、各学年におけるエネルギー環境教育の進め方についての研修を実施。 ・県外原子力関連施設視察研修(年1回実施) 近隣では見学できない県外の原子力関連施設等の見学研修を実施。	○エネルギー環境教育に係る教職員研修 町内小中学校の教員のエネルギー環境教育に関わる基本的な知識の習得や町独自のエネルギー環境教育に対する理解の醸成につながった。	B	B	B					

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
	3 社会教育の充実	3-1 地域コミュニティの推進	○公民館活動の推進(3-1-1) ◇地域コミュニティの推進 各地区公民館を地域のまちづくりの拠点施設として利用促進することで住民同士の共助意識を育み、地域コミュニティが再生されるような施設運営を実施 ◇行政の相談窓口、情報発信拠点としての役割 地域の情報を広報誌の発行により発信 ◇郷育の推進 「みはま郷育プログラム」と連携した公民館講座の実施	○公民館活動の推進 ◇地域コミュニティの推進 ・公民館利用者数10,183人(前年度9,729人) 北西郷公民館6,871人、南西郷公民館1,422人、耳公民館1,179人、山東公民館711人 ・公民館各講座受講者数1,465人(前年度1,214人) 北西郷公民館508人、南西郷公民館509人、耳公民館121人、山東公民館327人 ・講座回数57回(前年度55回) ◇情報発信拠点としての役割 ・公民館だよりの発行 3館(北西郷、耳、山東公民館):毎月発行 南西郷公民館:隔月発行 ◇郷育の推進 ・減塩みそづくり(北西郷公民館)1回【10人参加】 ・おさかな料理(北西郷公民館)3回【40人参加】 ・くぼ丸なす栽培(南西郷公民館)1回【48人参加】	○公民館活動の推進 ◇地域コミュニティの推進 ・公民館活動の定着により、公民館利用者数が454名増、講座受講者数が251人増と大幅に増えた。 ◇行政の相談窓口、情報発信拠点としての役割 ・地域住民で組織する地区公民館運営委員が関わりながら広報誌を作成し、SNSなどの媒体を活用しながら、情報を積極的に発信できた。 ◇郷育の推進 ・地域に伝わる伝統や技術の継承、近年希薄化しつつある地域における人の繋がりがりや連帯感を再認識することができた。 ・地域の特色ある食材・郷土料理の継承を推進していくことができた。	B	B	B	B	B	B	29
		3-2 図書館活動の充実	○図書館サービスの充実(3-2-1) ◇蔵書・資料の充実 蔵書の拡充、閲覧・貸出、リクエスト等利用者サービスの向上 ◇移動図書館の実施 ◇利用者ニーズにあったサービスの提供 年代に応じたサービスや、高齢者、図書館利用に障がいのある方への配慮 ◇本の通帳、お気に入りの一冊コンテストの実施	○図書館サービスの充実 ◇蔵書・資料の充実 来館者数50,645人、蔵書冊数(図書のみ)84,796冊、雑誌種数67種、新聞種数9種、 予約・リクエスト冊数3,751冊、 貸出点数(個人)76,813点、新規購入冊数2,313冊、 除架・除籍実施(除籍数)421冊、 本のコーナー企画展示(一般:23回 児童:8回) ◇移動図書館 ・北西郷公民館で8回実施(R5.12.23～) ・貸出冊数71冊 ◇利用者ニーズにあったサービス提供 図書館訪問:小学校3回・保育園5回 受入 保育園出前:1回訪問 ・よちよちおはなし0・1・2(乳幼児と保護者対象) ・おはなしたまてばこ(幼児～小学生対象) ・頭イキイキ音読の会(高齢者対象) 視覚障害者情報総合ネットワーク「サビエ」利用開始(R5.11.1～) ◇本の通帳、お気に入りの一冊コンテスト ・本の通帳:のべ1,034冊発行 ・お気に入りの1冊コンテスト:218点応募	○図書館サービスの充実 ◇蔵書・資料の充実 ・利用者からのリクエストを踏まえ、適宜図書を購入することができた。 ・一般書・児童書ともにコーナー企画展示を随時行い、季節ごとに図書を紹介することで新たな図書との出会いを支援できた。 ◇移動図書館 ・移動図書館を実施し、図書館から遠い地域の利用者に本を提供することができた。 ◇利用者ニーズにあったサービス提供 ・乳幼児対象の催しやブックスタート、保育園・学校からの来館受入等他機関と連携できた。 ・図書館利用に障害のある人へのサービスを開始することができたが、利用者がいないため周知が必要 ◇本の通帳、お気に入りの一冊コンテスト ・本の通帳は、新規発行数の伸びは少ないが、リピーターは増加している。 ・お気に入りの一冊コンテストを開催し、読書の楽しさや思いを伝える表現力を育むことによって、人と本とをつなぐことができた。	—	—	—	A	A	A	30
		3-2 図書館活動の充実	○子どもの読書活動推進、町民のくらしの中の役立つ図書館(3-2-2) ◇子どもの読書活動推進 生涯学習施策と連携したイベント等を通じて図書館の魅力や情報の発信 ◇町民のくらしの中の役立つ図書館 利用しやすい窓口サービスの充実と郷土資料等の整備、各機関と連携したネットワーク型運営	○子どもの読書活動推進、町民のくらしの中の役立つ図書館 ◇子どもの読書活動推進 ・なびあず学びの森(なびとしよ島) 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』公演先取り企画 うごく招き猫を作ったあやつろう 16人 『怖い話』ワークショップ 6人 なびとしよハロウィン 11人 ルルとララの作者あんびるやすこ先生のとっておきのおはなし 95人 ・なびあず学びの森(ネイチャー島) ちりめんモンスターを探せ 16人 ・みんなのわくわく本棚の設置 143冊 ◇町民のくらしの中の役立つ図書館 ・窓側の学習スペースにデスクライトを設置:10台 ・スタッフ研修の実施 2回 移動図書館、災害対策について ・地域愛文庫の継続実施(約90冊) ・逐次刊行物の収集・保存(約40種)	○子どもの読書活動推進、町民のくらしの中の役立つ図書館 ◇子どもの読書活動推進 ・なびあず学びの森(なびとしよ島)では4事業開催し、多くの親子に図書館を知っていただく機会を作ることができた。 ・家庭ではなかなか手に取ることのできない大型絵本、大型紙芝居、仕掛け絵本等を集めたコーナーを設置することにより、親子で来館することのきっかけができた。 ・なびあずと連携して事業を行うことができた。 ◇町民のくらしの中の役立つ図書館 ・デスクライトを設置することで、机上の照度アップが図れ、学習スペースの利便性を高めることができた。 ・古文書等の資料を活用し、町内の郷土資料について専門知識を所有する美浜町歴史文化館や若狭国古城歴史資料館と連携を図り、利用者からの相談に対応した。 ・各課からのレファレンスに相互貸借等を活用して対応した。	B	B	A	B	B	B	31
			○図書検索・貸出サービス、電子図書、オンラインデータベースの導入(3-2-3) ◇図書検索・貸出サービス ・図書館サービスの提供効率向上と新たな利用者拡大のため、図書館システムをはじめとする電子機器やインターネットサービスの活用を推進 ◇電子図書、オンラインデータベースの導入 ・電子図書館開設やオンラインデータベースについて検討し、ICT関係のニーズを把握	○図書検索・貸出サービス、電子図書、オンラインデータベースの導入 ◇図書検索・貸出サービス ・セルフ貸出サービス年間利用者数:4,964人(月平均約414人)(R元.9～利用開始) ◇電子図書、オンラインデータベースの導入 ・電子館アプリ「なびとしよ」ダウンロード数:67件 ・電子図書館サービスデモンストレーション研修参加	○図書検索・貸出サービス、電子図書、オンラインデータベースの導入 ◇図書検索・貸出サービス ・図書館システムを活用し、正確・迅速なサービス提供に努めた。 ◇電子図書、オンラインデータベースの導入 ・電子図書館サービス研修に参加し、電子図書館サービスへの理解を深めた。	B	B	A				

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		3-3 青少年健全育成の推進	○子ども向けイベントの開催(3-3-2) なびあすキッズデーの開催	○子ども向けイベントの開催 ・なびあすキッズデーの実施 ふしぎ駄菓子屋銭天堂イベントにあわせて、子ども向けに駄菓子屋やスーパボールすくい、射的、手作りゲームなどのキッズコーナーを設置した。 来場者数675人	○子ども向けイベントの開催 ・ゼロ予算ながら、手作りでキッズコーナーを運営し、来場した子どもたちに楽しんでもらうことができた。 ・ライオンズクラブやなびとしよ菜lib、アートフォックスなど、外部との連携を図ることができたが、青少年健全育成事業としてジュニアリーダーや青少年育成美浜町民会議と連携できなかった。	B	B	B	B	B	B	32
			○美浜町子ども会育成連絡協議会による活動(3-3-2) 各集落子ども会の交流、地域内の世代交流	○美浜町子ども会育成連絡協議会による活動 ・ミニバレーボール大会の実施 参加集落18集落、参加選手数157人 ・卓球大会の実施 参加集落19集落、参加選手数約150人 ・かるた大会の実施 参加集落13集落、参加選手数28人 ・嶺南子連かるた大会 4チーム参加 ※啓成Aが2位	○美浜町子ども会育成連絡協議会による活動 ・参加したい子どもが参加しやすいように、合同チームやルールの柔軟な運用などを行った。 ・コロナ禍があげ、徐々に参加集落も増えてきているが、コロナ前の状況には戻っていない。	B	B	B				
			○青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会による家庭指導(3-3-3) 学校・PTA等と連携した家庭でのSNSルール作りや使い方の指導	○青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会による家庭指導 ・青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会が連携して、夏休みと冬休みの2回、青少年育成啓発チラシ「どの子もわが子のように」を作成し全戸配布。	○青少年育成美浜町民会議・町愛護センター・人権研生活指導部会による家庭指導 ・子ども達の実情に合わせて内容を改善して配布することができた。 ・各学校が行っている生活調べとも重なる部分もあり、双方向からの働きかけを行うことができた。	B	B	B				
		3-4 社会教育活動への参加促進	○各種イベント・講座への参加促進(3-4-1) なびあす公演、なびあす講座、はあとふる学園、人権講座、なびあす学びの森、なびあす子ども合唱団などへの参加の促進	○各種イベント・講座への参加促進 ・なびあす公演 《R5》8公演、2,930人、90.1% 《R4》9公演、3,052人、83% ・なびあす講座 《R4》14講座、112人 《R5》15講座、114人 ・はあとふる学園 《R4》講座6回、館外研修1回、43人 《R5》講座9回、館外研修1回、71人 ・人権講座 《R4》6講座、767人 《R5》5講座、683人 ・なびあす学びの森 《R4》13講座、197人 《R5》10講座、199人 ・なびあす子ども合唱団 《R4》30レッスン、4ステージ、31人 《R5》37レッスン・6ステージ、37人	○各種イベント・講座への参加促進 ・R4年度と比較しても全体的に参加者は増加傾向であり、子どもから高齢者までの学びの場を提供できた。 ・なびあす公演は今までで最も高い9割の来場者率であった。 ・なびあす講座は、新しい講座の企画を工夫し講座数を増やすことができ、はあとふる学園においては名前を大学から学園に変更したり、企画委員の声掛けにより28人も増えた。 ・人権講座は、講師の都合で1講座中止となったが、1講座当たりの人数は増えており、今後も開催日や時間を工夫して参加者を増やしていく。 ・子どもの文化事業も定着し、なびあす学びの森の講座数は減ったが参加者が増えたり、なびあす子ども合唱団も美浜の参加者が増え、ステージ出演のオフアームも増えるなど、子どもたちに歌を通して様々な経験を提供することができた。	—	—	—	B	B	B	33
	○公民館を拠点とした地域活動の参加促進(3-4-2) 地区公民館運営委員会の自主的な活動の促進と、自主防災組織や地域住民のサークル活動の支援。	○公民館を拠点とした地域活動の参加促進 ・美浜町地区公民館社会教育関係団体 登録団体:15団体 【R3年度:14団体 R4年度:16団体】 ・北西郷公民館グラウンド芝植え作業 参加者:北地区民73名 ・地域発見事業(北西郷) 参加者42名	○公民館を拠点とした地域活動の参加促進 ・地区公民館全館において、地域住民による公民館運営委員会が組織され地区公民館のあり方や必要性が浸透しつつある。 ・子どもから高齢者までの北地区民が芝植作業に参加し、地域コミュニティの活性化を図ることができた。 ・町にオープンしている新しい施設等を訪れることにより、地域を再発見することで、「地域愛」の醸成を図ることができた。 ・自主防災組織や地域住民のサークル活動の支援については、特別な事業実施ができなかった。	—	—	—						
	4 生涯スポーツの推進	4-1 スポーツ機会の充実	○スポーツ教室・体力づくり教室及びニュースポーツの普及(4.1-1)(4.1-2) 町民が生涯にわたってスポーツに親しめるよう、子供から高齢者まで参加できる体力づくり教室やスポーツ教室を開催する。 また、誰もが気楽に参加し、楽しめるニュースポーツを普及する。	○スポーツ教室・体力づくり教室及びニュースポーツの普及 ・体力づくり教室(一般向) 7教室(上期、下期) 250人(R4:7教室 195人) ・スポーツ教室(小学生向) サッカー、卓球 35人(R4:卓球、陸上 84人) ・ニュースポーツ普及(スポーツ推進委員) 町内4か所(ポッチャ) 112人(R4:186人)	○スポーツ教室・体力づくり教室及びニュースポーツの普及 ・体力づくり教室 令和4年度に比べて参加者が増加し、健康増進と普及拡大に繋げることができた。 ・スポーツ教室 令和4年度の教室内容を変更して実施し、参加者は減少したが、小学生のスポーツ促進に繋げることができた。 ・ニュースポーツ普及 令和4年度に比べて参加者数は減少したが、スポーツ推進委員の積極的な活動により町内各地区で実施し普及に努めることができた。	B	B	B	B	B	B	34

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		4-2 スポーツ施設の充実・活用	○ 体育施設管理運営(4.2.1) 総合運動公園を中心に、ふれあい広場、西郷健康ひろば、県立漕艇場等を拠点施設に位置づけ、各施設において利用者に配慮した施設機能拡充や魅力度向上を図るとともに、誰もがスポーツに親しみ健康増進に取り組むことができる環境づくりを推進する。	○ 体育施設管理運営 ・年間利用者数 ※()は令和4年度実績 総合運動公園 61,437人(59,724人) 西郷健康広場 18,094人(19,444人) ふれあい広場 6,545人(6,445人) ゆうあい広場 6,055人(5,062人) ・総合運動公園 テニスコート照明設備更新工事、多目的運動場照明設備更新工事、野球場受変電設備機器更新工事、他工事多数 ・ふれあい広場 受変電設備等改修工事、植栽管理工事 ・ゆうあい広場 破損破風修復工事 ・西郷健康ひろば ガーデンバサソル備品購入	○ 体育施設管理運営 ・体育施設の設備の保守点検及び修繕等について、概ね計画通りに実施することができた。 ・老朽化が進んでいる総合運動公園野球場、多目的運動場、テニス場及びふれあい広場の電気設備に関する工事が完了したため、今後利用者が安全かつ快適にスポーツができる環境を整備することができた。 ・コロナ禍も明け、R4年度に比べ利用者が概ね増加した。	B	B	B	B	B	B	35
		4-3 推進体制の強化	○ スポーツ協会運営整備及びスポーツ少年団の体制整備(4-3-1) 各主催大会を開催する。 地区スポーツ協会、種目協会の支援及び育成を図る。 また、スポーツ少年団においては、スポーツを通して団員相互の交流を深め、青少年の健全育成とともに、活動を支える指導者や保護者・地域の教育力を高めることに寄与する。	○ スポーツ協会運営整備及びスポーツ少年団の体制整備 ・町スポーツ協会主催事業 9種目中7種目実施 約400人参加 ・スポーツ少年団 5種目6団体に育成補助金を交付 団員数117人	○ スポーツ協会運営整備及びスポーツ少年団の体制整備 ・スポーツ協会主催事業 コロナ禍が明けて徐々に参加者が増えてきているが、参加チームが大会規定に足りず実施できない種目が2つあった。	B	B	B	B	B	B	36
		4-4 スポーツ交流の促進	○ 美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会開催事業(4.4.1) 当町出身で名誉町民である歌手の五木ひろしさんのご協力をいただき、風光明媚な若狭湾国定公園の海岸線コースを潮の香りを肌で感じながら楽しく走っていただくために開催する。 ○ ボート大会・ボート体験教室等の実施(4.4.2) ・第36回町民レガッタの開催	○ 美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会開催事業 ・第36回美浜・五木ひろしふるさとマラソン マラソン19種目、ウォーキング1種目 エントリー数 1,864人 当日出走者数 1,616人 ○ ボート大会・ボート体験教室等の実施 ・町民レガッタ 参加クルー数 144クルー 約1,000人来場 (うち交流の部 36クルー)	○ 美浜・五木ひろしふるさとマラソン大会開催事業 当日は強風により開催が危ぶまれたが、大会の中止基準がなかったため開催判断が遅れレースの開始にも影響を及ぼす恐れがあった。そのため、次年度に向けて中止の判断基準を作成した。 ○ ボート大会・ボート体験教室等の実施 コロナ禍により実施していなかった「交流の部」を4年ぶりに復活させたことやテント内飲食ができることになったことから、チームや企業間での交流人口の拡大に繋がった。	B	B	B	B	B	B	37
		4-5 国体レガシーを活かしたスポーツの推進	○ 「ローイングの町美浜」の推進(4.5.1)(4.5.2) 交流人口拡大、裾野拡大、機運醸成の観点から当町の町民スポーツであるローイング競技を活用し、スポーツによるまちづくりを推進する。	○ 「ローイングの町美浜」の推進 ・福井県立艇庫 合宿受入実績 1,373人、37日間 (J-STAR、U23、U19、シニア) ・福井県が久々子湖漕艇場2000m延伸化 測量調査業務着手(完了予定:令和6年8月末) ・第43回全日本中学選手権競漕大会 開催日:令和5年7月21日～23日 199クルー、約450人 ・第19回全国中学校選抜ローイング大会の開催 参加選手 96人 約200人来場	○ 「ローイングの町美浜」の推進 ・令和4年12月から日本オリンピック委員会のボート競技強化指定センターに久々子湖漕艇場が認定されたことで、U23やU19の日本代表合宿の拠点となっており、年々受入実績が増加している。 ・福井県が久々子湖漕艇場の2000m化に向けた調査設計業務に着手した。 ・全日本中学選手権競漕大会を開催し、交流人口の拡大や関係人口の増加に繋がった。	B	B	B	B	B	B	38

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No	
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価			
5	町民文化の創造	5-1 芸術・文化の機会提供及び推進	○ <u>なびあす文化事業(5-1-1)</u> 様々なジャンルの公演、なびあす子ども合唱団やコーラスラインの育成、ピアノ事業、美浜美術展など、町民に質の高い文化を提供及び推進	○ <u>なびあす文化事業</u> ◇主催7公演、共催1公演開催 チケット販売率93.5%、来場者率90.1%、40代までの来場者数5割 ◇ <u>なびあす子ども合唱団の育成</u> ポコアポコ17名、ピアノチェボレ20人(うち美浜17人) ・6ステージ出演(うち町内依頼3件、町外依頼1件) ◇ <u>コーラスラインの育成</u> ・2公演開催、ふるさと合唱コンクール開催 ◇ <u>ピアノ事業の実施</u> ・ポルタ特別レッスン(3回、町内0人、町外16人) ・PrimoPasso(3回、町内2人・町外4人) ・ピアノオープンDay(5回、町内11人・町外49人) ・ピアノ教室オープンDay(2回) ◇ <u>第34回美浜美術展(151点)</u>	○ <u>なびあす文化事業</u> ◇公演はチケット販売率、来場者率ともに9割以上を達成することができた。これは幅広い年齢をターゲットに今までのジャンルに捉われない公演を企画したことによって、新たななびあすファンが増え、なびあすファンクラブを開設したことによる来場者が定着したものと考ええる。 ◇なびあす子ども合唱団は町内の加入が増え、たくさんのステージを成功させた。3周年記念コンサートでは今までの活動の成果や新たな挑戦を披露し、年齢に関係なく団員同士の交流を深めることできた。 ◇コーラスラインは新たな事業として、ふるさと合唱コンクールや交流コンサートを開催するなど、持続可能な事業に転換することができた。 ◇ピアノ事業は特別レッスンの回数とピアノオープンDayの回数を増やし、町内の参加を募ることができた。 ◇美浜美術展は毎年レベルの高い作品が応募されるが、今回は応募数が減ったため、来年度は増やせるよう周知方法や募集要項の見直しを図った。	A	A	A	B	B	B	39	
			○ <u>学校アウトリーチ(5-1-2)</u> 学校で子ども達に芸術・文化の鑑賞機会を提供	○ <u>学校アウトリーチ(5-1-2)</u> 取組みなし(R4年度より2年に1度実施)	○ <u>学校アウトリーチ(5-1-2)</u> 70周年記念式典アトラクションで弓削田健介さんにご出演いただき、R6年度の学校アウトリーチにつなぐことはできた。	A	A	A					
		5-2	文化活動への町民参画の推進	○ <u>美浜美術作家会の活動促進(5-2-1)</u> 美浜美術作家展を開催する。	○ <u>美浜美術作家会の活動促進</u> ・第4回美浜美術作家展(8/9～18) なびあすコミュニティルーム、ホワイエで開催。 入場者数 483人	○ <u>美浜美術作家会の活動促進</u> ・美浜美術作家会の会員12人の作品の展示や美方高校美術部作品、美浜中学校美術部作品を連携展示し、毎年開催したいと作家の創作意欲を掻き立てることができた。				B	B	B	40
				○ <u>町民の文化活動の活性化(5-2-2)</u> ◇ <u>美浜町文化協会の活動促進</u> 町内文化団体の活動の場や機会の提供 ◇ <u>なびあすアートフェスタ2023の開催</u> 文化協会をはじめとする各種団体、個人、関係各課が連携・参画する形で、幅広く「学び」を発信していく。	○ <u>町民の文化活動の活性化</u> ◇ <u>美浜町文化協会【再掲】</u> ・第29回美浜町文化協会展(6/9～8/30) なびあす学びのストリートで開催。 ・第42回福井県市町文協選抜美術展(9/8～10) 美浜町総合体育館で開催。 ・第32回福井県市町文協選抜芸能祭(9/24) 南越前文化会館で開催。 ・なびあすアートフェスタ2023文化交流祭(10/28～11/5) ◇ <u>なびあすアートフェスタ2023</u> ・オープニングイベント(10/28) 子どもたち(美方高校・美浜中学校・なびあす子ども合唱団)によるステージ発表やトランペット☆ヒーローズのコンサートを開催。 ・なびあすファンクラブ開設記念 iroriコンサート(10/29) ・文化交流祭(10/28～11/5) 期間中、展示部門(24団体)・ステージ部門(22団体)・体験部門(4団体)を開催。 ・なびゲラランド(11/11・12) (来場者数 計4,332人)	○ <u>町民の文化活動の活性化</u> ◇ <u>美浜町文化協会【再掲】</u> ・美浜町総合体育館で開催した「福井県市町文協選抜美術展」に、特別併設展として町内6団体、計45点の作品を展示して、出展者の製作意欲を促した。(会場輪番) ・「美浜町文化協会展」を主催するとともに、「なびあすアートフェスタ文化交流祭」に参加し、日頃の活動の成果を披露する場を提供し、文化協会に所属する多くの団体の参加に繋がった。 ◇ <u>なびあすアートフェスタ</u> ・【再掲】「オープニングイベント」や「文化交流祭」を開催することで、町内で活動している文化団体の活動の成果を披露する場を提供することができ、多くの来場者にも楽しんでいただいた。 ・参加団体を公募した結果14団体の申し込みがあり、展示部門7団体、ステージ部門3団体、体験部門1団体が新たな参加となった。 ・【再掲】期間中は「美浜つながるフェスタ」、「はまなびフェスタ」と連携し、美浜町制施行70周年記念イベントとして大きな役割を果たすことができた。	A	A	A				

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4		R5		No		
						自己評価	外部評価	自己評価	外部評価			
		5-3 地域文化への支援	○文化芸術活動団体の育成及び活動支援(5-3-1) ◇ArtFoxの活動推進 なびあす若者実行委員会イベント運営補助と運営支援 ◇なびあすコーラスラインの活動推進 なびあすコーラスライン運営事業補助と運営支援	○文化芸術活動団体の育成及び活動支援 ◇ArtFox【再掲】 ・なびゲーランド(11/11・12) 来場者1,557人 ※はまなびフェスタ2023と同時開催 ・なびゲーランド感謝祭(3/9) 来場者337人 ◇なびあすコーラスライン【再掲】 ・コーラスライン合同練習会(年間計15回) ・男声合唱団サミット in みはま 2023(7/23) 参加団体…5団体 ・ふるさと合唱コンクール in みはま(10/15) 参加団体…7団体 ・ランチタイムコンサート～合唱団Youthを迎えて～(3/28)	○文化芸術活動団体の育成及び活動支援 ◇ArtFox【再掲】 ・今年度からイベントの企画運営及び予算を自主管理したことで、次年度に向けた運営体制の強化を図れた。 ・「なびゲーランド」は2日間開催で、新たなコンテンツを追加したくさんの親子連れの来場があった。 ・余剰予算を活用して、委員が自発的になびゲーランド感謝祭を開催し、スタッフ自身も楽しむことのできるイベントが開催できた。 ◇なびあすコーラスライン【再掲】 ・新規事業である「ふるさと合唱コンクール」や「ランチタイムコンサート」を開催して、コーラスライン実行委員会として例年より多く活動することができた。	A	A	A				
			○なびあすアートフェスタ文化交流祭の開催(5-3-2) 文化協会をはじめとする各種団体、個人、関係各課、が連携・参画する形で、幅広く「学び」を発信していく。	○なびあすアートフェスタ文化交流祭の開催 なびあすアートフェスタ2023文化交流祭(10/28～11/5) ・オープニングイベント(10/28) 子どもたち(美方高校・美浜中学校・なびあす子ども合唱団)によるステージ発表やトランペット☆ヒーローズのコンサートを開催。 ・文化交流祭(10/28～11/5) 展示部門(24団体)、ステージ部門(22団体)、体験部門(4団体) (来場者数 計4,332人)	○なびあすアートフェスタ文化交流祭の開催 ・展示 工芸・書道・絵画など、なびあす館内がたくさんの作品で彩られた。 ・ステージ発表 合唱・太鼓・弾き語りなど、迫力あるパフォーマンスを来場者に3日間お届けすることができた。 ・体験 茶道・己書など、様々な文化活動の様子を来場者に体験してもらうことができた。	—	—	—	A	A	A	41
			○なびあすファンクラブ(5-3-3) ファンクラブ会員制度の運用により、なびあす公演をお得に鑑賞できる機会の提供	○なびあすファンクラブ 会員登録者数…627人(R5年度) ・永年会員(町内)…367人 ・年会員(町外)…260人	○なびあすファンクラブ ・「会員価格での提供」や「ファンクラブ先行販売」などの特典がインセンティブとなり、会員登録が増えた。 ・R5年度のなびあす自主文化公演のチケット販売数は9割を超えており、ファンクラブ制度によってチケット購入促進に繋がった。	—	—	—				

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		5-4 文化施設の活用	○なびあす公演の開催(5-4-1) 幅広い年齢層をターゲットにしたなびあす公演の開催	○なびあす公演の開催 ・漫才のDENDŌin美浜(20代以上) ・亀井聖矢ピアノリサイタル(30代以上) ・人形劇『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』(小学生以上) ・歌まねスペシャルライブ(20代以上) ・ironiコンサート(50代以上) ・yama Christmas Special Live(10代以上) ・DRUM TAO(30代以上) 10歳未満(10.1%)、10代(10%)、20代(5.6%)、30代(10%)、40代(15.4%)、50代(16.3%)、60代(18.3%)、70代(14.3%)	○なびあす公演の開催 ・令和元年度時は60代以上の方で65%を占めていたが、幅広い年齢層をターゲットに公演を企画してきたことにより、50代までで約7割の来場があり多くの世代の方に公演を楽しんでもらうことができた。	—	—	—	B	B	B	42
			○なびあす通信の発行(5-4-2) 町民への文化施設や芸術団体に係る活動情報の提供	○なびあす通信の発行 ・4～3月 計12回発行(4400部×12回) ・広報みはまに挟み込み、月1回全戸配布 ・国古城歴史資料館、歴史文化館のイベントや展示情報の掲載 ・文協展や、美浜美術作家展の情報掲載	○なびあす通信の発行 ・なびあす通信を通してなびあすだけでなく町内文化施設の活動情報を掲載したり、学びのストリートでの掲示などにより町民に情報を発信できた。	—	—	—				
			○ピアノ事業(5-4-3) ピアノ「FAZIOLI F308」を活用した、育成プログラムポルタ特別レッスン・PrimoPassoの実施、ピアノに触れる機会を提供するピアノオープンDay・ピアノ教室オープンDayの実施	○ピアノ事業 ◇ポルタ特別レッスン(中・上級クラス) ・開催 3回(講師:大宅さおり、上野真、川村文雄) ・総参加人数 町内0名、町外16名 ◇ポルタPrimoPasso(初級者クラス) ・開催 全3回(講師:加藤絵里子、松居 利佳氏) ・参加人数 町内2名、町外4名 ◇ピアノオープンDay ・開催 5回 ・総参加人数 町内11名、町外50名 ◇ピアノ教室オープンDay ・2教室	○ピアノ事業 ◇ポルタ特別レッスン(中・上級クラス) R4年度で中上級者対象のポルタレッスンを終了したため、ニーズに対応するべく特別レッスンを1回から3回に増やし開講。有名ピアニストによるレッスンであるが、町内者の参加はなく、参加者も定員に達しなかった。 ◇ポルタPrimoPasso(初級者クラス) 町内の参加はあるが、参加者数は年々減少傾向にある。 ◇ピアノオープンDay R4年度は全3回実施し、応募多数で計10名が落選したため、回数を5回に増やし実施した所、町民の参加も少なく定員に達しなかった。今まで実施していなかった平日夜にも実施し、休日参加しにくい方が参加できるよう工夫した。 ◇ピアノ教室オープンDay R4年度よりは2教室少なかった。	B	B	B				
		○地区公民館、歴史等による芸術文化の場の提供(5-4-4) ・地区公民館・分館を活用し、ふるさとの歴史文化講座の開設や、地域に伝わる技術を伝承するための活動を実施	○地区公民館、歴史等による芸術文化の場の提供 ・ふるさと歴史再発見講座(参加人数29名) ・みはま歴史講座(参加人数150名)	○地区公民館、歴史等による芸術文化の場の提供 ・地域の歴史文化を学び、伝統文化の継承を実現できる講座を実施し、郷土への理解を深めることができた。	—	—	—					
		5-5 文化交流の推進	○文化交流等による文化意識の向上と人材育成(5-5-1) ◇なびあすアートフェスタの開催 文化協会をはじめとする各種団体、個人、関係各課が連携・参画し、住民、演奏者、スタッフ等による文化の交流を推進 ◇なびあす学びの森の実施 親子で参加できる様々な文化体験ワークショップの実施	○文化交流等による文化意識の向上と人材育成 ◇なびあすアートフェスタ(5-5-1) ・オープニングイベント(10/28) ・なびあすファンクラブ開設記念 ironiコンサート(10/29) ・文化交流祭(10/28～11/5) ・なびゲーランド(11/11・12) (来場者数 計4,332人) ◇なびあす学びの森 ・年間10件のワークショップを実施(2件中止) (なびとしよ島、アート島、ふるさと宝島、音の島、サイエンス島、ネイチャー島) ・総参加人数 199人	○文化交流等による文化意識の向上と人材育成 ◇なびあすアートフェスタ(5-5-1) ・「オープニングイベント」や「文化交流祭」の開催により、町内で活動している文化団体の活動の成果を互いに交流を図りながら鑑賞、体験することができた。 ◇なびあす学びの森 ・町民を中心とした講師によるワークショップの実施により、参加者に新たな発見をもたらした(知識、喜び、楽しみ、地元の魅力など) ・興味、関心が高まりリピーターが多く、開催を楽しみにする声あり	A	A	A	A	A	A	43

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No	
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価			
	6 歴史文化の伝承	6-1 歴史文化の掘り起こしと調査	○国史跡興道寺廃寺関連遺跡の保存活用事務(6-1-1) 国の指定を受けた興道寺廃寺跡周辺の関連遺跡の発掘調査を実施する。出土品の整理、調査研究を進める。史跡の保存活用計画等を策定する。	○国史跡興道寺廃寺関連遺跡の保存活用事務 ・国指定史跡興道寺廃寺跡において、用地測量業務を実施(業務期間)R5.3.16～R5.12.20(業務内容)境界測量67筆、実測図等作成	○国史跡興道寺廃寺関連遺跡の保存活用事務 ・令和4年度繰越事業として実施したが、委託業務はもとより、所有権者の相続調査、地権者説明会、現地境界立会等今後の公有化や本格整備に向けての足掛かりとなる取組ができた。	B	B	B				44	
			○開発事業に伴う試掘調査(6-1-2) 周知の埋蔵文化財包蔵地区域内における開発事業に伴い、土中の文化財の有無を確認するため試掘調査を行う。	○開発事業に伴う試掘調査 ・R3年度までに発掘調査で出土・採集した金属製造物に対する保存処理業務を実施 ・開発行為に伴う現場立会:2回(竜沢寺遺跡、興道寺遺跡) ※発掘および試掘調査の実施なし。	○開発事業に伴う試掘調査 ・R2～R3国等補助により実施した「高善庵遺跡発掘調査」に係る報告書については、R5度中の策定ができなかった。	—	—	—		A	A		B
			○国吉城址の史跡価値の向上(6-1-3) 国吉城址の史跡としての価値を高めるため、外部で国吉城の周知を進めると共に、全国城跡等石垣調査整備研究会等の学術研究会へ積極的に参加し、知見を高め、情報交換を行い、国吉城址の更なる史跡的価値の向上に努める。	○国吉城址の史跡価値の向上 ・滋賀県米原市伊吹山文化館講演 ・福井県土木研鑽協会講演 ・福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館夏季特別展「朝倉義景の一生」への協力(資料展示、講演等) ・おい町歴史フォーラム講演 ・ふくい城巡りフェス講演 ・第30回全国山城サミット朝来大会参加 ・第19回全国城跡等石垣調査整備研究会(姫路大会)参加 ・お城EXPO2023講演	○国吉城址の史跡価値の向上 ・県内外で国吉城址に関する講演機会を得、発掘調査の成果や赤色立体地図から判明した新知見、「徳川家康ゆかりの地」として三英傑と国吉城の関わりを史実や伝承を含め解説し、広く周知することができた。 ・研究会等では、各地の研究者や発掘調査に携わる学芸員らと懇談し、最新知見の情報交換を行うことができた。	A	A	A					
			○北前船日本遺産登録事業(6-1-4) 美浜町に残る北前船関連の文化財を日本遺産に登録を目指すと共に、全国の登録自治体と協力して地域活性化を図るため、文献、資料調査等を実施する。	○北前船日本遺産登録事業 ・北前船フォーラム参加(岡山県岡山市) ・北前船に関する講演会(土曜歴史講座) ・北前船に関する企画展(歴史文化館) ・北前船PR動画作成協力(観光誘客課) ・文化庁への日本遺産登録申請	○北前船日本遺産登録事業 ・登録に向けて町内外に残る美浜の北前船の寄港記録・資料を取りまとめた。 ・町内でこれまで知られていなかった船絵馬、模造船、石造物、古文書等を新規に発見することができ、美浜町の新しい歴史的魅力を掘り起こした。 ※R6年度認定予定	B	B	B					
		6-2 歴史文化の保存と継承	○国吉城址及び佐柿の文化財保存と整備・活用(6-2-1) 国吉城址の文化財的価値を損なわない範囲で、城山の環境保全及び史跡整備(定期的な草刈り、城山樹木整理、・幟設置、城山遊歩道の修繕)を行う。また、国吉城や佐柿の歴史的町並みのPR、国登録有形文化財である旧田辺半太夫家住宅の活用にも努める。 地元佐柿区と連携した歴史的景観を活かしたまちおこしに協力し、協働のまちづくりを進める。	○国吉城址及び佐柿の文化財保存と整備・活用 ・城山の環境保全(定期的な草刈り、城山頂上部本丸周辺及び連郭曲輪群Ⅱ郭斜面の雑木整理、現存石垣等の保全と眺望確保等) ・史跡整備(遊歩道修繕、城山ライトアップ等) ・旧田辺半太夫家住宅座敷の活用(会議、打ち合わせ、徳賞寺住職の達磨絵作品の公開、成人式や結婚式の前撮り撮影等)	○国吉城址及び佐柿の文化財保存と整備・活用 ・城山の環境保全や史跡整備は、地元一般社団法人佐柿国吉100年プラン推進委員会に一部委託することで、地域と連携した文化財保護、まちづくりの取り組みを行うことができた。 ・旧田辺半太夫家住宅座敷は、様々な形で活用がなされた。	A	A	B				45	
			○歴史資料及び指定文化財の保存・維持管理(6-2-2) 収集した古文書・写真を整理して内容を把握し、リスト化する。古文書は一部解説なども行う。 資料の閲覧・公開・貸出を一部行いながら資料の寄託、寄贈等の整理を実施する。 町指定無形民俗文化財管理団体等に対し、備品修繕等に対する補助を実施する。	○歴史資料及び指定文化財の保存・維持管理 ・受入・所蔵資料の整理・目録作成 資料(近世～現代) 約190点 画像資料(写真・データ画像) 約1650点 図書・冊子・ファイル資料等 約100点 映像資料・音声資料 約30点 ・町指定文化財「弥美川流域変遷井水論記」を含む寄贈資料の整理 ・麻生王の舞保存会、早瀬子供歌舞伎保存会に対して補助を実施 ・令和5年度より復活した弥美神社王の舞、早瀬子供歌舞伎の保存会へ備品購入等に対し補助を実施	○歴史資料及び指定文化財の保存・維持管理 ・年度を通して200点近くの古文書整理や1600点を超える写真をはじめとした画像資料の整理を進めることができた。 ・博物館や大学及び町民に対して、写真などのデータを提供することで、資料活用により各活動に寄与することができた。 ・所有者が県へ寄贈する予定であった町指定文化財「弥美川流域変遷井水論記」を町への寄贈という形で町外への移動を防ぐことができた。	B	B	B					

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
		6-3 文化財の活用と情報発信	○国吉城歴史講座(6-3-1) 現場見学やワークショップ、座学等、国吉城と佐柿、戦国美浜に関連する内容で実施することにより、広く国吉城への関心を高め、理解を深めてもらう「国吉城ファン」を育成し、将来的にはガイド育成に繋げる。	○国吉城歴史講座 ・第1回：家康伝承・土井山砦を歩こう (6/25、39人) ・第2回：どうした家康！どうなる家康!! (7/23、34人) ・第3回：夏休みワークショップ(7月末～8月末土日祝) ①国吉城ペーパークラフトを作ろう(17人) ②オリジナル御城印を作ろう(364人) ・第4回：家康の城を掘る～遠州諏訪原城～ (9/30、33人) ・第5回：古里をのろしでつなごう＆お城トークバトル (10/15、89人) ・第6回：テーマでめぐる戦国の城歩き (11/5、20人) ※R5年度受講者数合計：596人	○国吉城歴史講座 ・R5年度は、大河『どうする家康』に絡めた「徳川家康ゆかりの地」を全体テーマとして、全6回を開講した。 ・後半の第4～6回講師には、外部の専門家を招聘した。 ・第6回を除き、毎回募集定員(通常30人、ペーパークラフト3組)を上回り、受講者数も前年度(489人)を大きく上回った。	S	S	A				46
			○歴史文化館の運営(6-3-2) 企画展等を開催し、歴史講座とも連携した展示を行う。また、歴史文化館を活用するため、文化遺産カードの一般配布等を行う。 歴史文化館や文化財資料を活かして、愛好者や地域住民、各種団体・学校の学習の場として活用を図る。	○歴史文化館の運営 ・企画展、若狭路文化研究所協力展示：計2回 若狭路文化研究所協力展示「印刷と歴史」 第15回企画展『美浜に残る北前船の波跡』 ・文化遺産カード計43種類の一般配布を継続 『歴史だより』を発行：3回(第23～25号) ・YouTubeチャンネル、Facebook等のSNSで動画や記事を配信 ・R5年度利用者数 2,957人	○歴史文化館の運営 ・展示室への年間入室者数がR5年度は547人となり、400人台に留まっていたR3・4年度から回復した。 ・開館以来の展示室入室者が累計5千人を突破(計5,026人)し、施設利用(耳公民館利用含む)の累計は2万人を達成(計20,034人)することができた。	B	B	A				
			○若狭国吉城歴史資料館の運営(6-3-3) 国吉城と佐柿の歴史的町並み、美浜町の戦国史や幕末・近代史等をテーマにした年4回の企画展・トビックス展を開催するほか、『資料館だより』を発行してPRに努め、各種イベントにも協力(資料館無料公開など)して、「いつ来ても何かが新しい資料館」を心掛ける。 資料館運営補助として、地元佐柿区民を国吉与力衆として館運営に協力してもらう。	○若狭国吉城歴史資料館の運営(6-3-3) ・企画展・トビックス展：4回 春季企画展『どうした家康?!～なぜ美浜にきた！～』 夏季トビックス展『城コレ2023夏～家康、再び～』 秋季企画展『ふくい城巡りヒストリア』 冬季トビックス展『美浜町制70年記念・国吉城址と美浜町の歩み』 ・『資料館だより難攻不落』発行：6回(第32～37号) ・国吉城まつりの開催協力 ・ナイトミュージアムの開催 ・地元佐柿区との連携：国吉与力衆(施設管理委託) ・令和5年度入館者数：12,397人	○若狭国吉城歴史資料館の運営(6-3-3) ・団体客も、コロナ禍前と同程度に回復し(44団体)、個人客も順調に伸びて、過去最高数だった前年度(11,429人)を1割ほど上回った。	A	A	A	A	A	A	
			○みはま土曜歴史講座(6-3-4) 年間を通じて、座学・歴史体験、現地探訪などを組み合わせた「みはま土曜歴史講座」を開催する。 また、「みはま土曜歴史講座」についてYouTubeによる配信を行う。	○みはま土曜歴史講座 ・第1回：印刷の歴史とコンニャク版体験 9/9(土) 参加者数 24人 ・第2回：美浜町の文化財めぐり(現地探訪) 10/22(日) 参加者数 20人 ・第3回：美浜の絵馬 絵馬の歴史、県内の絵馬 11/11(土) 参加者 20人 ・第4回：美浜に行き交う北前船 ※早瀬観光センターで実施 12/3(日) 参加者 47人 ・第5回：紫式部の生涯と平安貴族の生活 3/2(土) 参加者 46人 累計参加者 157人	○みはま土曜歴史講座 ・講座を計5回(現地探訪1回、座学4回、座学4回は外部より講師を招聘)実施し、157人の参加があった。 ・コロナ禍以降、参加者数を1講座20人程に制限し講座を実施してきたが、第4・5回の講座においては制限を無くしそれぞれ47人、46人と過去最多の参加者を得たことで、合計参加者数は前年(計80人)の2倍近くに昇った。 ・第4回講座において、早瀬観光センターで開催するなど新たな取り組みを行った。 ・参加者からアンケートでは、概して講座の内容は好評を得ており、翌R6年度の講座について期待する意見が多数得られた。	B	B	B				

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)

大項目	基本目標	重点施策	事務・事業概要	実績	評価	R4			R5			No
						自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
	7人権尊重への取り組み	7-1 人権学習・啓発の推進	○保育・学校教育における人権教育の充実(7-1-1)	○保育・学校教育における人権教育の充実 ・人権尊重の精神に基づき、全職員の共通理解のもとに実践を推進 校内人権研修会の開催 人権同和教育に関する公開授業の開催	○保育・学校教育における人権教育の充実 ・人権教育を柱として、様々な教育活動を進めることができた。	B	B	B	B	B	B	47
			○美浜町人権教育研究会を中心とした研究実践(7-1-2)	○美浜町人権教育研究会を中心とした研究実践 ・人権教育研究会 保育園、小学校、中学校のそれぞれの発達段階に応じた実践・研究 保小中の連携 研究紀要の発行	○美浜町人権教育研究会を中心とした研究実践 ・保育園、小学校、中学校のそれぞれの発達段階に応じたテーマを設定し、研究を推進することができた。 ・不登校や発達障害等の今日的教育課題に対して、共通理解を図りながら対応することができた。 ・保小中が縦横の繋がりを意識した活動を行うことができた。 ・年度末に1年の研究成果をまとめた研究紀要を発刊することがきた。	B	B	B				
			○学校における講演会等を通じた人権学習の充実(7-1-3)	○学校における講演会等を通じた人権学習の充実 ・人権週間を中心に、各小中学校で講演会等を開催 美浜中(校内人権作文発表会) 美浜東小(田中一歩、近藤孝子[にじいろi-Ru]) 美浜西小(佐野裕子[たきざわ助産院]) 美浜中央小(人権集会)	○学校における講演会等を通じた人権学習の充実 ・すべての学校で人権に関する講演会等を開催することができた。	B	B	B				
			○美浜町人権尊重啓発協議会6部会の活動による人権意識の向上(7-1-4)	○美浜町人権尊重啓発協議会6部会の活動による人権意識の向上 ・作品公募・意識調査部会 人権作品の公募、審査、表彰 一般の部 短い手紙(31)、写真(46) ・広報ふれあい部会 広報ふれあいの発行 年間3回発行、全戸配布 ・啓発資料・人権協コーナー部会 『「誰か」のことじゃない』をテーマとした学習資料 を発行、全戸配布 ・町民人権講座部会 町民人権講座 年間5回開催 ※中止1回 全5回 計683人参加 ・人権のつどい部会 人権のつどい開催 334人参加 ・推進団体学習部会 集落、団体等における人権学習会の開催 28集落、1団体、2企業が開催	○美浜町人権尊重啓発協議会6部会の活動による人権意識の向上 ・人権協の6部会が事前の計画通りに取り組みを進めることができた。 ・人権作品の一般公募が昨年度を上回った。 ・広報ふれあい部、人権に関する町民意識調査の結果の一部を町民に広報することができた。 ・1回は中止となったが、平均136人の方々に人権講座に参加していただくことができた。 ・多くの方に人権のつどいに参加していただき、人権について考えていただく機会とすることができた。 ・多くの集落で学習会を開催していただき、コロナ禍前の状況に戻ってきた。	B	B	B				
			7-2 人権擁護の取り組み	○人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進(7-2-1)	○人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・人権擁護委員および人権擁護機関と連携し、人権週間に町内巡回キャンペーンを実施 ・夏フェスタ美浜と人権のつどいの際に、人権啓発活動を実施	○人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・人権週間の初日に、3方面に分かれて巡回キャンペーンを実施することができた。より効果的な啓発とするために、できるだけ集落内を巡回するようにした。 ・夏フェスタ美浜での啓発では、暑い時間帯ということもあり、参加者が思ったより少なかった。	B	B				
	○美浜町人権擁護委員、人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進(7-2-2)	○美浜町人権擁護委員、人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・外部と連携するような人権侵害の事案無し		○美浜町人権擁護委員、人権尊重啓発協議会人権擁護・啓発部会による推進 ・人権擁護委員が人権協の人権擁護・啓発部会に所属することで、スムーズな連携ができる体制が整っている。	B	B	B					
	7-3 人権が尊重される社会の実現	○人権尊重のネットワーク強化(7-3-1)		○人権尊重のネットワーク強化 ・生涯学習推進課に人権研・人権協の事務局を置き、相互の連携を図るとともに、包括支援センター、町P連、庁内関係機関と協力して活動を推進することができた。 町民人権講座への共催(人権研、健康福祉課、町P連、同和会) 啓発活動(人権擁護委員)	○人権尊重のネットワーク強化 ・人権に関する事務局を生涯学習推進課に置くことで、学校教育と社会教育の連携、また、外部機関との連携を図ることができた。	A	A	A	B	B	B	49
		○個人情報保護やプライバシー保護(7-3-2)	○個人情報保護やプライバシー保護 ・令和3年10月1日より、本人通知制度を導入している	○個人情報保護やプライバシー保護 ・本人通知制度は導入済みであるが、インターネットモニタリングは実施できていない。	—	—	—					

【評価】

A…十分な成果がみられた B…おおむね成果がみられた C…成果がみられなかった D…評価対象外(未着手)